

暑くても
手抜きはいかん
33号

折紙探偵団新聞

折紙研究ノート (3)

—雪華：基本型とその多様な展開— 鈴木邦雄

折紙で雪華作品を創作したのは、私の知る限り次の人達です：ルイス・サイモン（高濱利恵、1985、『新暮しをかざるおりがみ』126-7頁、マコー社）、杉村卓二（『変わりおりがみ』1983、84-7、132-3頁；『おりがみファンタジー』1989、92-5、132-5頁、保育社）、藤本修三（藤本修三・西脇正巳『創造する折り紙遊びへの招待』1982、101-8、113頁、朝日カルチャーセンター）、北条高史（1994、折紙探偵団新聞28号、pp. 3-5）。北条さんのはユニット折紙。また、フランス・オウさんは、私と同じ基本型からいくつかの作品を作っておられます。杉村さんに紹介していただきましたが、後に直接送っていただきました。

私の雪華は、基本型は藤本さんやオウさんらと同様ですが、それからほとんど無限に作成できることが分かりました。基本型までの折り図を挙げておきます。作品の大きさにもよりますが、正六角形は、対辺間の長さが12センチ程度のものが、折りやすいのとある程度の鑑賞に耐える大きさだろうと思います。展示用としては、15センチ以上の方が見映えはするでしょう。

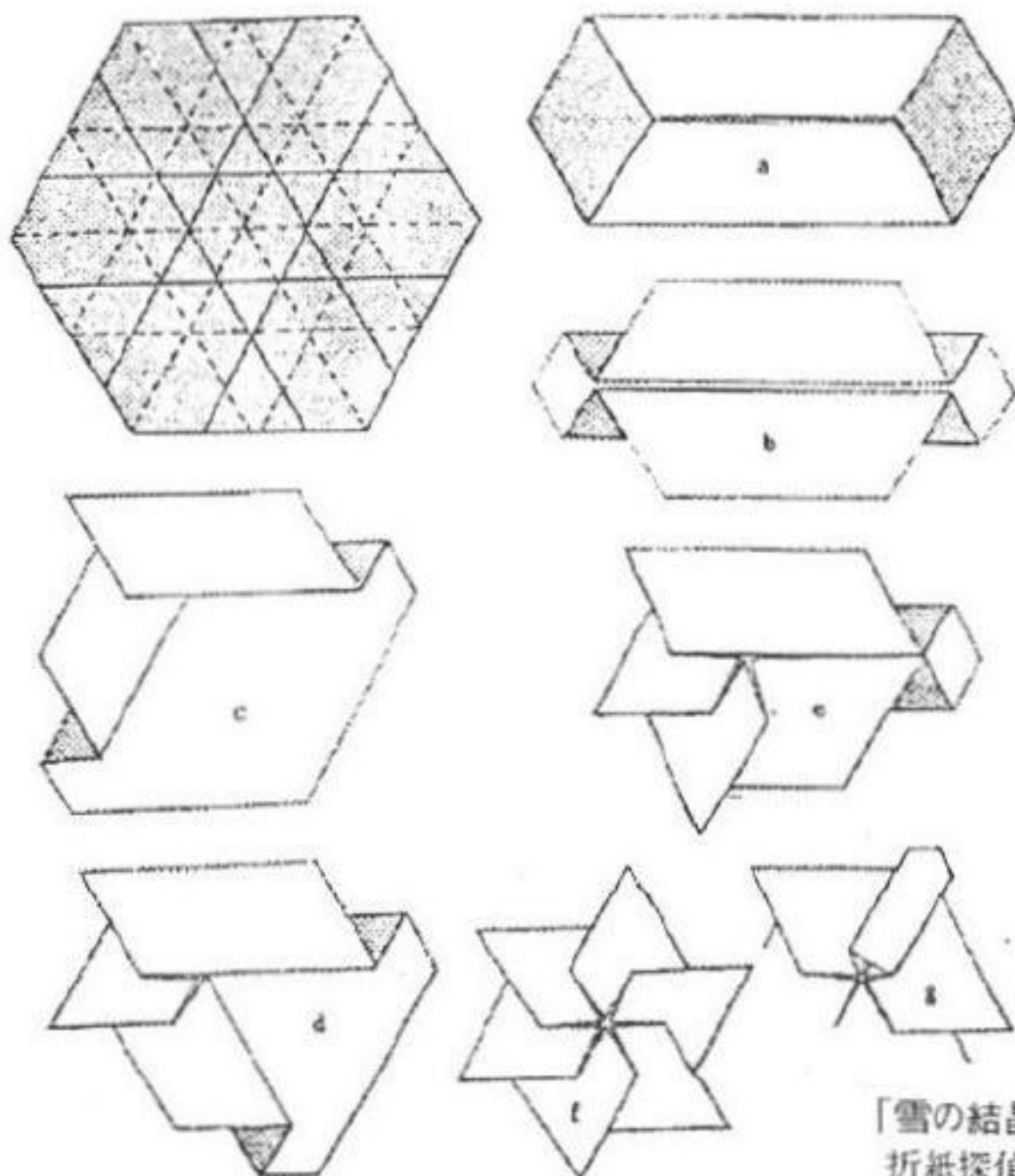
精度の高い正六角形紙を作るにはまず厚紙（ファイルに用いられているものが適当）上でコンパスと定規で作図してカッターで切り抜き、型紙を作ります。紙は薄手の雲竜紙が向いていますが、次回お話しする「透かしパターン」を浮き上がらせるには、均質の極薄の紙が適当です。最近私は美濃系統の俗に典具紙と呼ばれているものを使っています。これは全紙大で300円前後と高いので、

化粧用高級塵紙でも充分です。これですと、数百枚で数百円ですので、ほとんど元手はかかりません！紙の大きさにもよりますが、私の雪華を折るには、手だけでは無理で、ピンセットその他多少の小道具が必要です。さて、型紙を作りましたら用紙の上に置き、カッターで丁寧に切り抜きます。精度の高い正六角形紙を作るのは、なかなかコツがいります。切り抜いた正六角形は、隣りあった辺の長さが等しいかどうかを折って確かめます。この時、対辺をピッタリ重ねて折ったりせず、各頂角を正確に2等分するように折るのがコツです。繊維の方向性があるため対辺を重ねあわせようとしてもク

セがあって上手に折れません。国際会議の折に発表しましたが、私は出来上がった作品を分類・整理し、それらの相互関係を分類学・進化生物学などの用語で記述することを試みました。完成作品を、群に分けて記号化して示すだけでなく、折りの操作の段階をも示せるような命名方式を工夫してみました。このような方式は、これまで折紙ではほとんど試みられてきていないのではないかと思います。分類したり類縁（系統）関係を表示するのに便利ですし定義をきちんとすると折紙のような不可逆な折りの過程を説明するにも有効ではないかと思います。ここでは、そのモデルとお考えください。

私の雪華の中で、もっとも簡単な構造を持つ[B₁P₁]を例に説明しましょう。雪華は、正六角形紙から折り、6回対称形であるわけですが、突き出た枝の部分（B）と枝と枝の間の部分（P）を区別することができます。6回対称形ということは、完成作品は、最終段階で同じ操作を原則として6回繰り返して出来上がるわけです。そこで、BとPのどちらについても上ツキ・下ツキ数字で、それぞれ基本的な群（それは折りの操作の違いを表わしてもいいわけです）とステップを表わすように工夫してみました。

（つづく）



「雪の結晶」基本形の作り方
折紙探偵団第1回コンベン
ション折り図集より

折紙辞典

折紙辞典編纂室編

主幹

前川淳



さ-そ

さいげんせい【再現性】《名》 折り紙作品を、折りあがった個々の作品としてではなく、折る手順などのソフトウェアとして考えた場合に重要となる概念。同じ（ような）ものを折ることができる（かもしれない）が、偶然できたんだと言われればそれはそうだが、なんとかもう1回折ってみよう、違う作品ができたならそれはそれでいいじゃないか」ということ。

ざくつ【座屈】《名（工学）》 膝と腰が折れ曲がるように材料がZ字型に変形すること。「12月とは思えないみごとな紅葉」「同時通訳ってすごいなあ」と並んで、「第2回折り紙の科学国際会議」でのキーワードのひとつ。

さのやすひろ【佐野康博】《人名》 日本折紙協会理事長。トップ・リーダーの推薦する楽しい犬の折り紙で君のワンちゃんも大満足だ！

さんぼう【三方】《名》 伝承折り紙のひとつ。三方そのものは、前・右・左に穴が開いていることでその名があるが、折り紙のものには（当然のことながら）穴は開いていない。折り紙の象徴性・見立て（マルC西川）を考える上で重要な作品であるといえないこともなくもないかもしれないと思う今日この頃。

しずめおり【しずめ折り】《名》 怨霊・妖怪等を鎮めるために用いられる陰陽術に基づく折形（おりかた）の秘術。ではなくて、鉛の板で折り紙作品を作って駿河湾に沈めること。でもなくて、要するにでっばったところを押し込むこと。

しんぼうけい【真宝形・真方形】 短辺と長辺の長さの比が1対 $\sqrt{2}$ の長方形。我々のまわりにある最もありふれた紙型である。ありがたい名

前は中村栄志氏の命名。

しんめとりー【Symmetry】《名》 対称性。単に左右対称を意味するのではなく、秩序だった現象を読み解く際のキーワード。「国際シンメトリー学会」は「第2回折り紙の科学国際会議」の協賛団体のひとつ。

（この項目まじめだな）

すかしおり【透かし折り】《名》 このページを透かしてみよう。関連記事があるぞ。

すずきくにお【鈴木邦雄】《人名》 このページを透かしてみよう。関連記事があるぞ。

せいあんぞうけいだいがく【成安造形大学】《固有名》 滋賀県大津市にある美術系の4年制大学。「第2回折り紙の科学国際会議」を主催した。第3回は遠い。

せいさんかっけい【正三角形】《名》 3辺の長さが等しい平面図形。折り紙の用紙形として使用されることがある。

せいほうけい【正方形】《名》 4辺の長さと4つの角が等しい平面図形。折り紙の用紙形として最も頻繁に使用される。

せいごかっけい【正五角形】《名》 5辺の長さと5つの角が等しい平面図形。折り紙の用紙形としてたまに使用される。

せいろうかっけい【正六角形】《名》 6辺の長さと6つの角が等しい平面図形。折り紙の用紙形としてまあ使用されるほうだ。

せいななかっけい【正七角形】《名》 7辺の長さと7つの角が等しい平面図形。折り紙の用紙形としてはほとんど使用されない。これ続けるの？

せいはっかっけい【正八角形】《名》 8辺の長さと8つの角が等しい平面図形。折り紙の用紙形として使用されることもなくはない。あつ、見出し項目が五十音順になっていない。ま、いいか。

せいきゅうかっけい【正九角形】《名》 9辺の長さと9つの角が等しい平面図形。折り紙の用紙形として使用されているのを見たことがない。

せいじゅうかっけい【正十角形】《名》 10辺の長さと10個の角が等しい平面図形。折り紙の用紙形として使用したりしないよ、まったく。

せいじゅういちかっけい【正十一角

形】《名》 11辺の長さと11個の角が等しい平面図形。折り紙の用紙形とするに当たって、切り出すのが面倒すぎるぞ。

せいじゅうにかっけい【正十二角形】《名》 いい加減にしない。

せいしめんたい【正四面体】《名》

4つの正3角形を面とする立体。ユニット折り紙の基本となる立体のひとつ。

せいろうくめんたい【正六面体】《名》 6つの正方形を面とする立体。立方体。ユニット折り紙で最も多く使われる立体。おいおい、また始まるのか。

せんばづる【千羽鶴】《名》 6の次は1000でした。願い事を叶えるために千羽の折鶴を折ること。いつ頃からの習俗かは、右ページの著者に聞くとわかるかもしれない。広島平和記念公園のものは敬虔な気持ちになるが、西武ライオンズのベンチの中に飾られているものには、てやんでえという気になる。今年のライオンズにはすこし同情するが、おれなんかタイガースファンだぞ。優勝までコーヒー断ちしている筋金入りの虎キチだぞ。10試合で1回しか六甲風を歌えない甲子園のファンにただ涙。いやあ、あんまり弱いので仕事に専念できて感謝しているよ。

（涙）

そうさく【創作】《名》 誰も折ったことがない作品を考えること。誰も折らない作品を考えることと似ているが、よく考えると大きく違う。

そうじゅうしゃ【双樹舎】《固有名》 編集長の娘や編集部員が誌面に登場する雑誌「をる」の発行元。雑誌の内容がお笑い路線になっているように思えるのは気のせいかな。

それにしても【其れにしても】《接続詞》 今回は手抜きが目立つ。どうもすいません。なお、（今さらいうまでもないが）この辞典は思いつきだけで書いている。「あ行」「か行」でも、折形、折り図、折り線、岡村昌夫、内山興正、ぐらい折り、ギャラリーおりがみはうす（！）といった重要な項目を落としている。これらの項目については、増補版・改訂版を待て。（などと言っているのも、思いつきだからあてにしないように）

[折る対象をよく知ること]

前号巻頭の鈴木先生の「折紙研究ノート(2)」—具象折紙における対象の研究—をたいへん面白く読ませていただいた。具象的な折紙を作るためにその対象をよく知ることが大切なことは私も常々主張しているところだが、鈴木先生のようにカミキリムシの触覚の節が10個でなくて11個だなどと言って作者に作り直させるようなヒドイことをしたことはない。たとえば伴至誠さんの歌舞伎舞踊色紙の鏡獅子の弥生の帯が左矢の字になっているが、あれは右でなければいけないなどということは、まだご本人にも言っていない。(伴さん、ごめんなさい。)私も以前にコアラを作ったときに小さな尻尾をつけてしまったり、猿かに合戦の猿はニホンザルなのに長い尻

尾をつけたりなど失敗をしている。それでもそんなことは棚に上げて、五人囃子の並び方も知らないで作ってある段飾りなどを見るとイライラしてしまうのである。

[3弁のアヤメ]

さて、前号で鈴木先生が書かれていた中に、正3角形で3弁のアヤメ

指にも満たない。古いところで「かや草」では正6角形で3弁を折っているが、昔の人も写真が好きだったようだ。

正3角形で折る3弁かきつばたの最も古い例は明治18年の飯島半十郎著『幼稚園初歩』に載っているものであろうが、その他の例も、折り方は正方形で折るアヤメと同じで、

花卉の中が細くてあまり実物には似ていない。ここに図版を載せたのは、明治41年の木内菊次郎著『折紙と図画』のものである。これは3種の3弁燕子花を載せているが、(其三)というのが普通の形であって、他の2種は、実際の花の感じがリアルに出ていて、これはこの著者の新案なのかも知れない。

[3弁は忘れられた]

しかし、小学校で3弁アヤメを採用したのは、正3角形の紙の切り方を教えるという点を重視したものらしく、必ずしもリアリズムを尊重したわけではないのではなかろうか。リアリズムなら折鶴などはとんでもないことになってしまう。あんな形の鶴はいない。明治11年発行お茶の水付属幼稚園の「恩物図形」の中のアヤメは4弁であるが、当時一般に行われていたものはやはり4弁だったのだろう。4弁のアヤメは、実際の花には似ていないが、まことにバランスがよく出来ていて、造形的にもすばらしいが、他に発展する可能性の大きい「分子」を含んでいるという面からも、折紙の傑作としてよいものであろう。明治にあれだけ流行っていた3弁アヤメが昭和期になって急速に忘れられてしまったことには、もしかすると折紙の重要な秘密が隠されているのかも知れないと思うのである。

それでも写實的に3弁のアヤメを求める人は跡を断たないし、折鶴の尻尾だかなんだか、あの棒のようなものは一体何だ、という声も決してなくなることだろう。

明治32年の岡本昆石著『何邪問邪(なんじゃもんじゃ)』には、正方形で折ってその4分の1を切り取って糊でつけて、3弁にでっちあげるといふかなり乱暴な作り方が載っている。おおらかなものだ。

おりがみ庵

ひとりごと

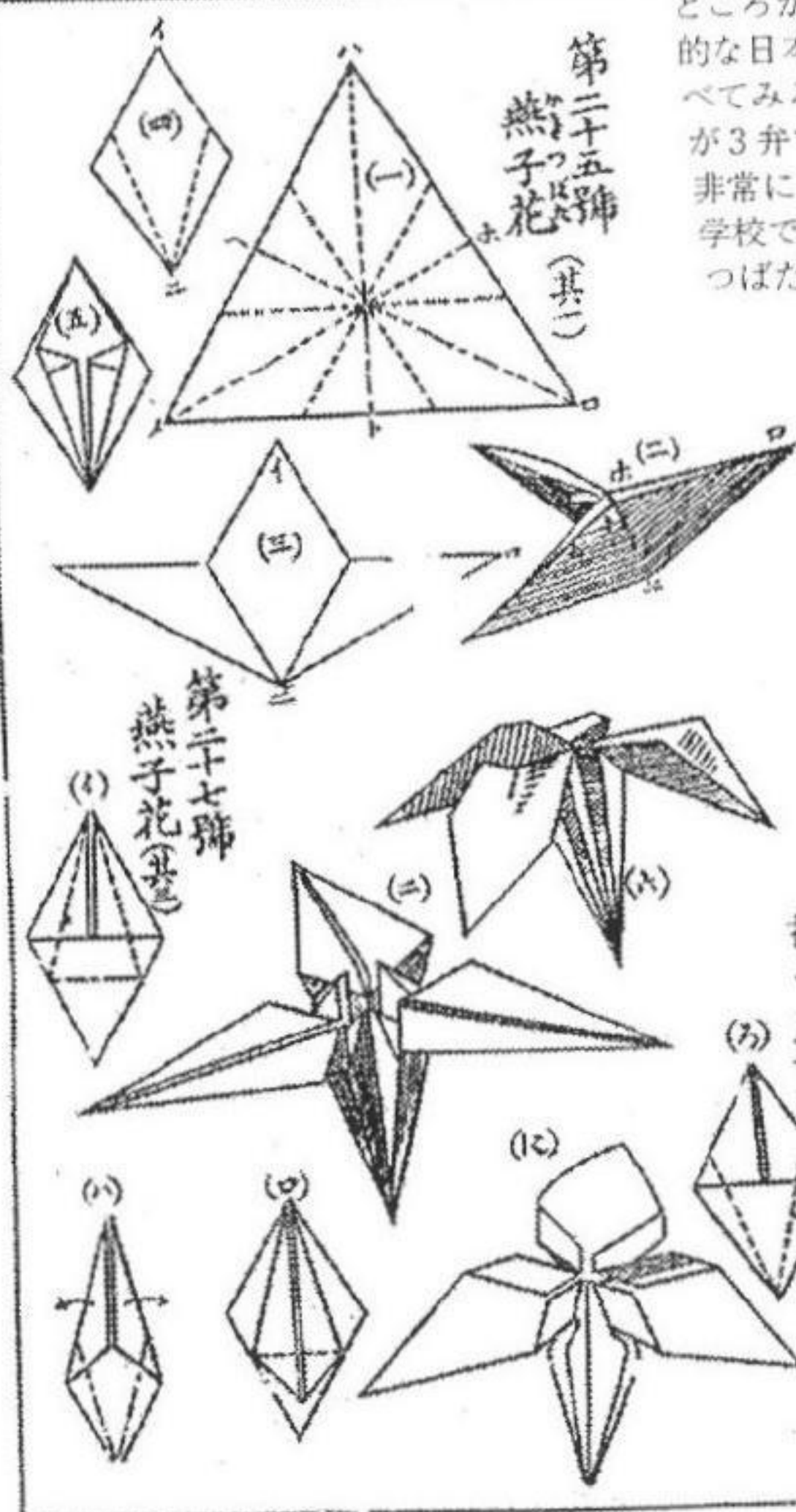
岡村昌夫

第20回

を作った人の話が出てくる。ところが意外なことに、伝統的な日本の折紙のアヤメを調べてみると、ほとんどの場合が3弁であって、4弁の例は非常に少ない。明治時代の小学校で教えた燕子花(かきつばた)・菖蒲(あやめ)

は大抵が正3角形で折るようになっているのである。私が現在までに収集している図入りの資料だけでも16例あって、まだいくらでも増えそうな勢いであるが、4弁は5

第二十五回
燕子花(其二)

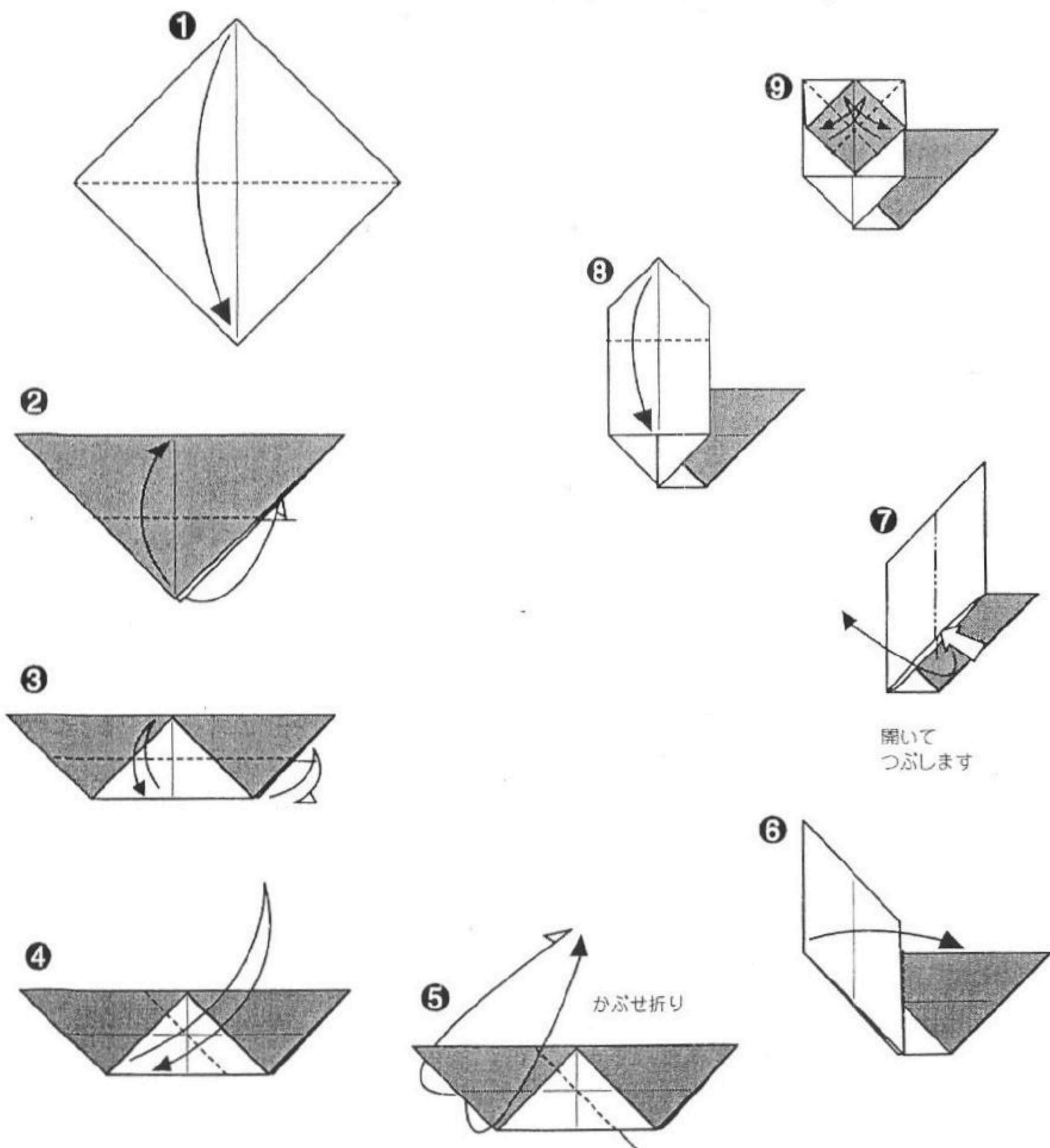


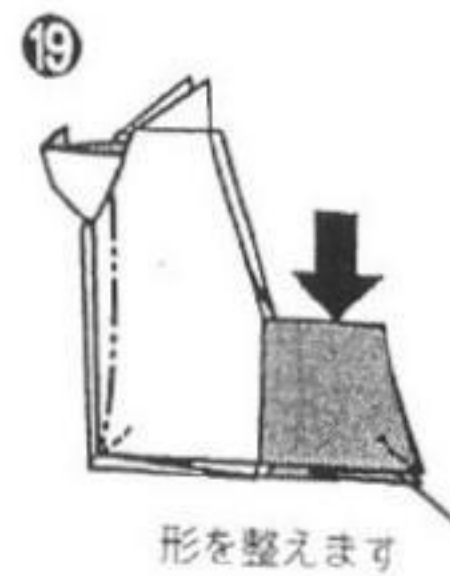
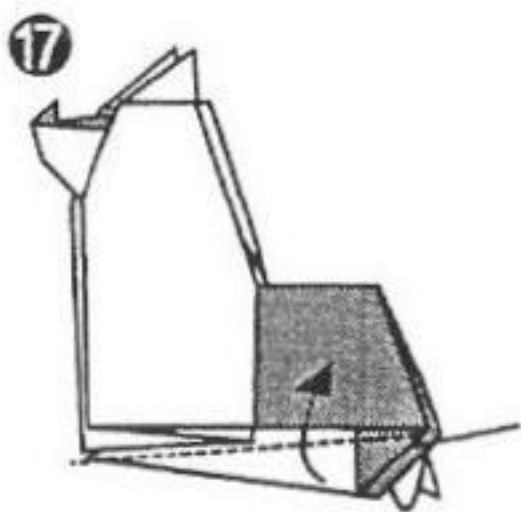
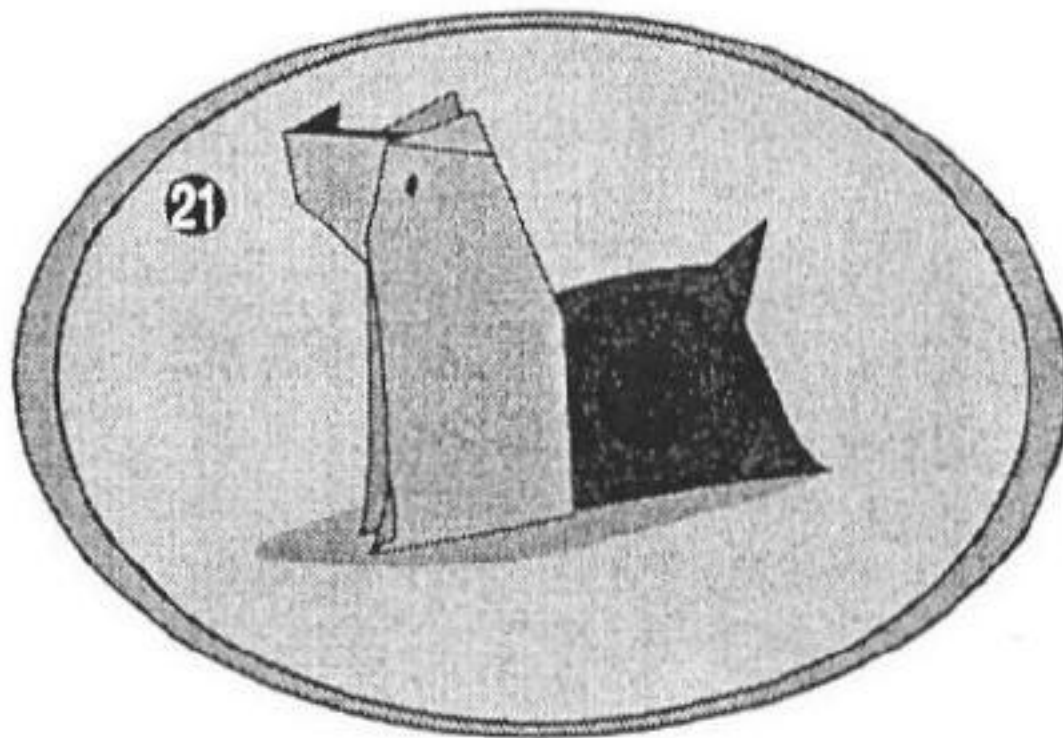
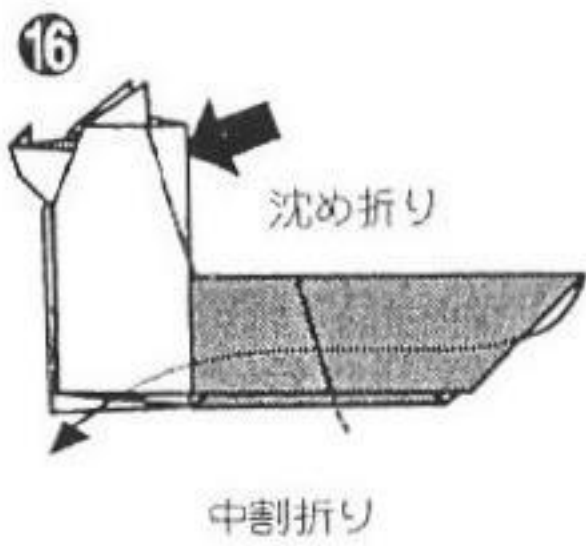
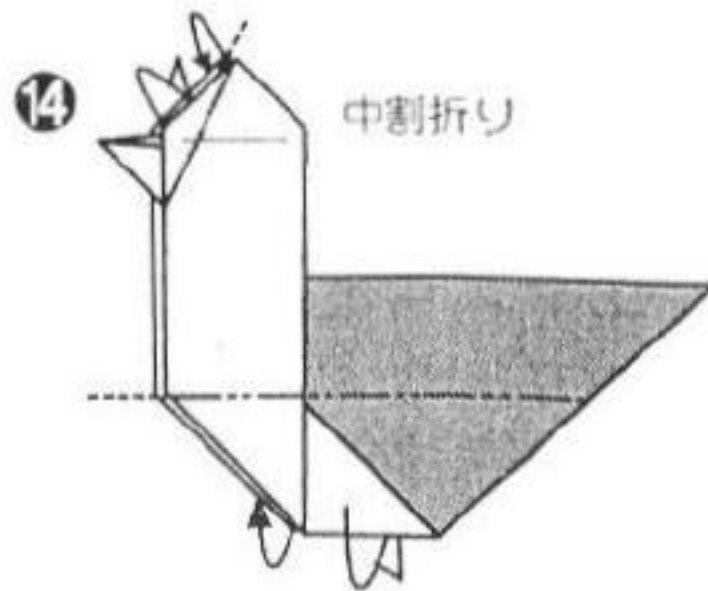
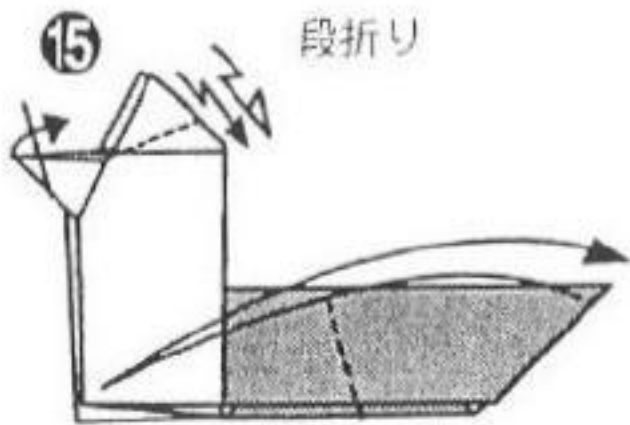
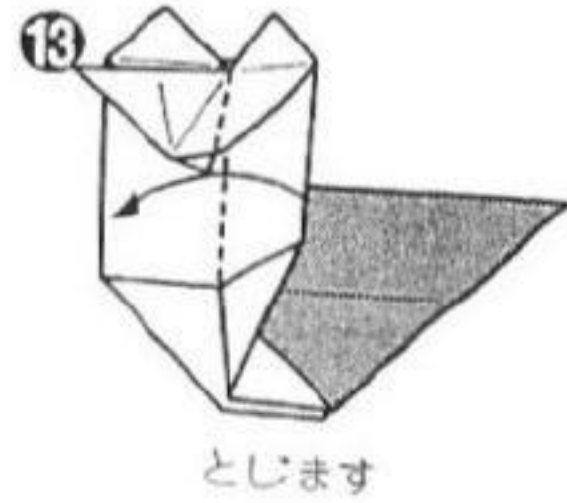
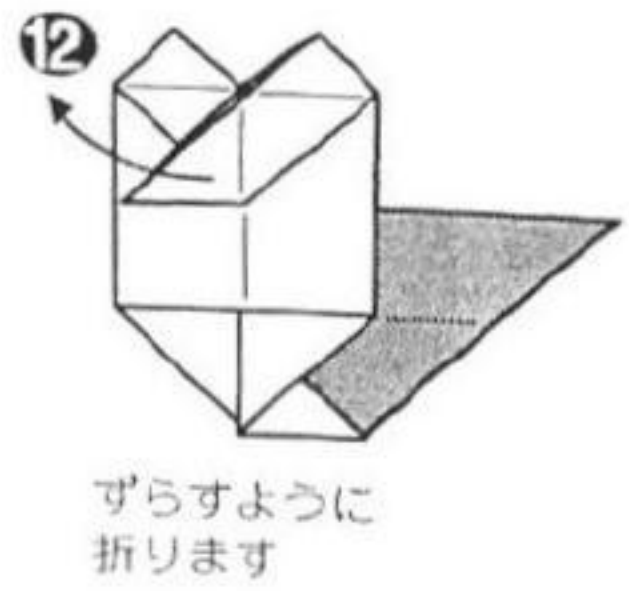
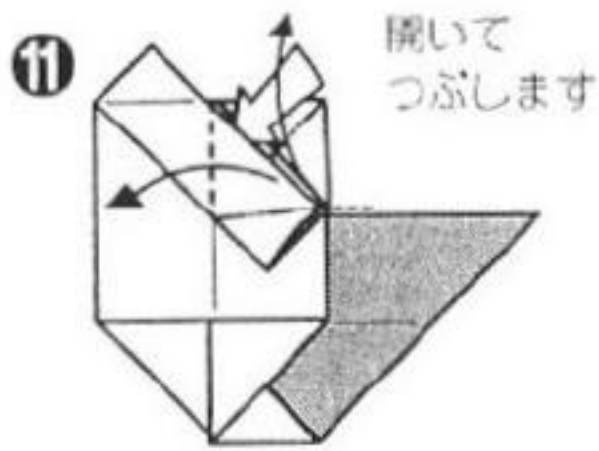
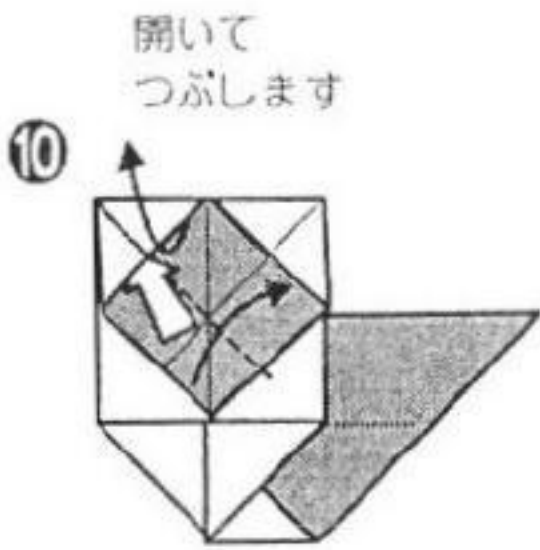
第二十六回
燕子花(其三)

こてこて土戸の こなもん定食

ヨークシャ・テリア

土戸英二 作

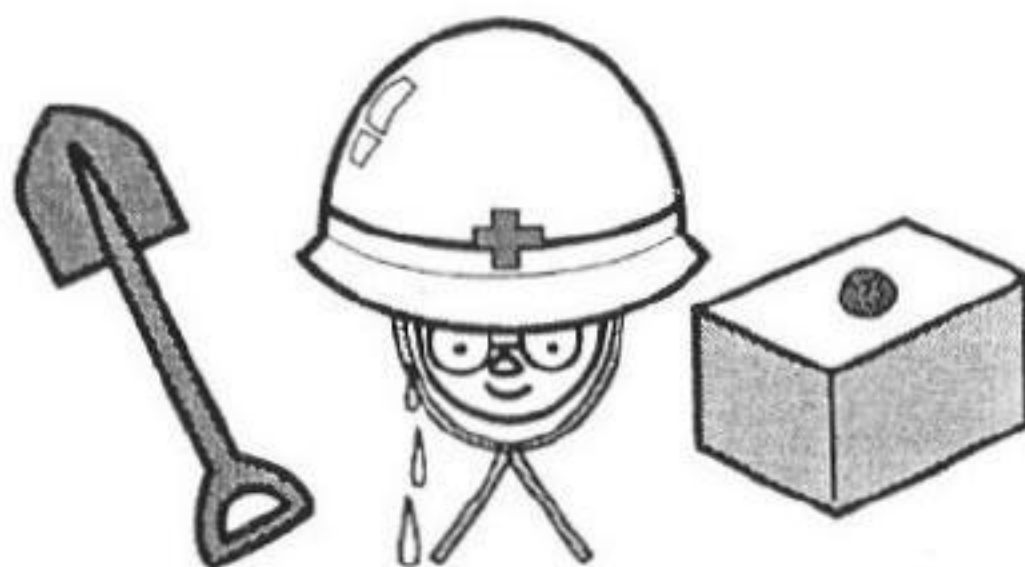




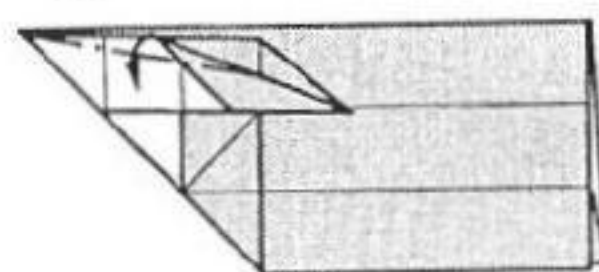
やまだ監督の 日の丸弁当 1

創作・作図 山田勝久

ながすくじら

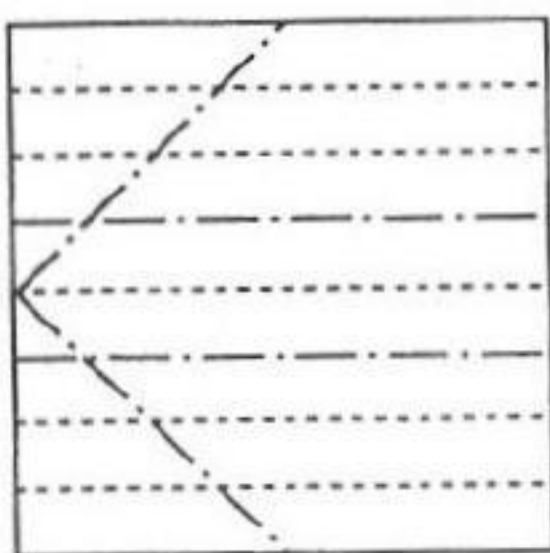


10

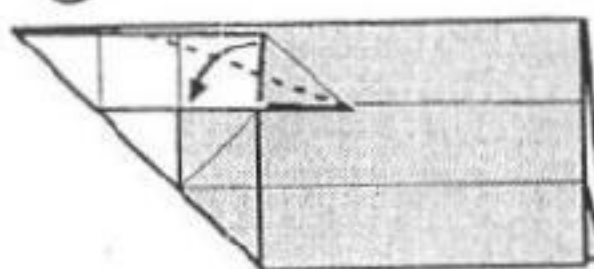


折りすじを付ける

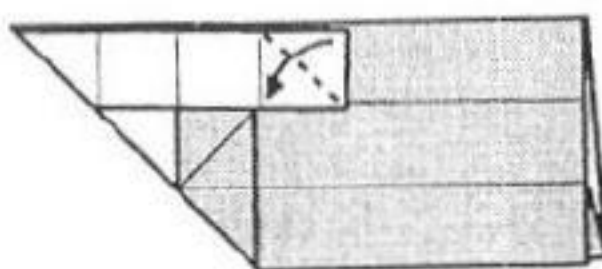
1



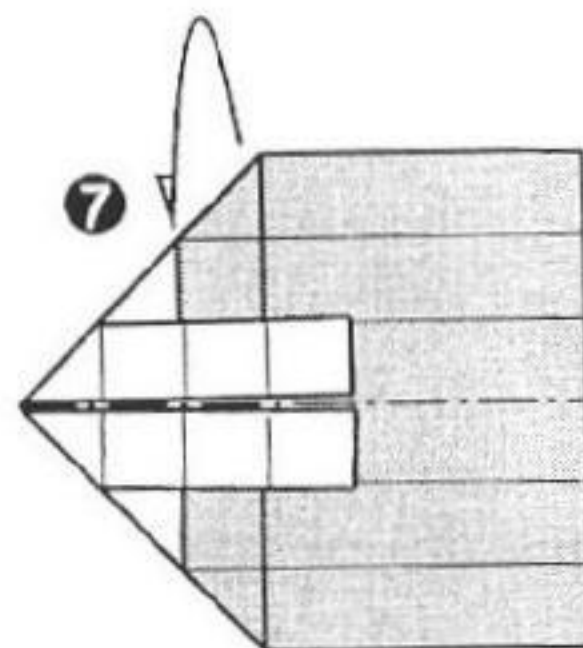
9



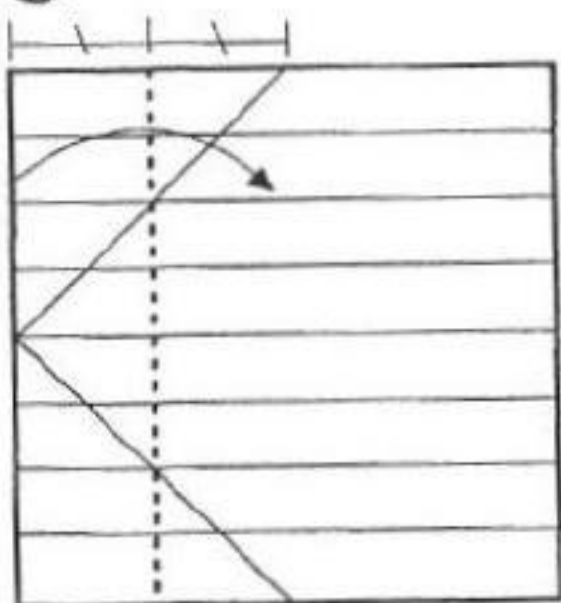
8



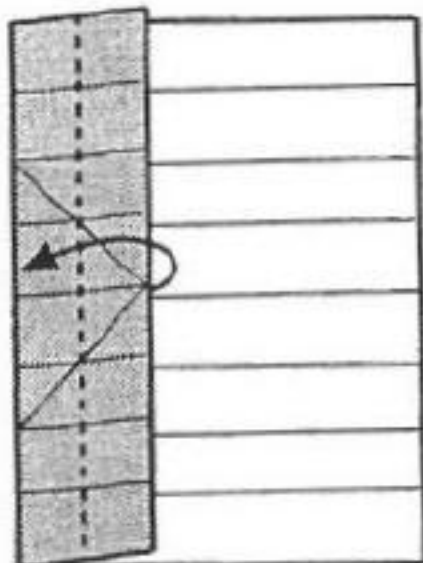
7



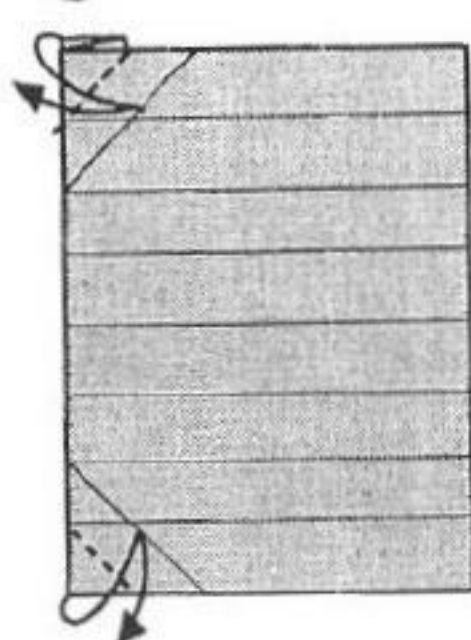
2



3

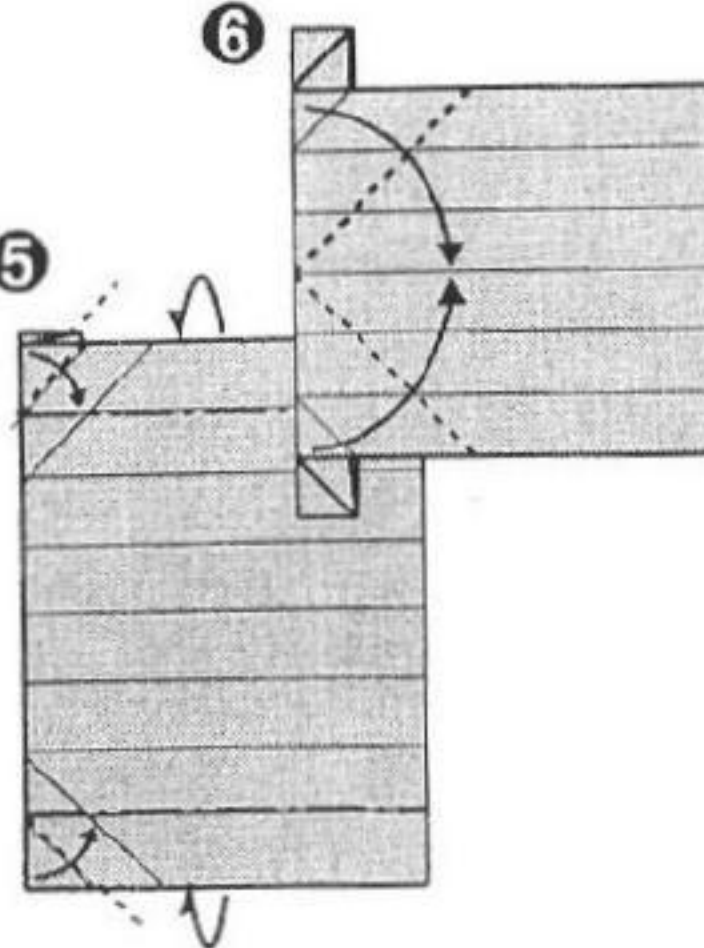


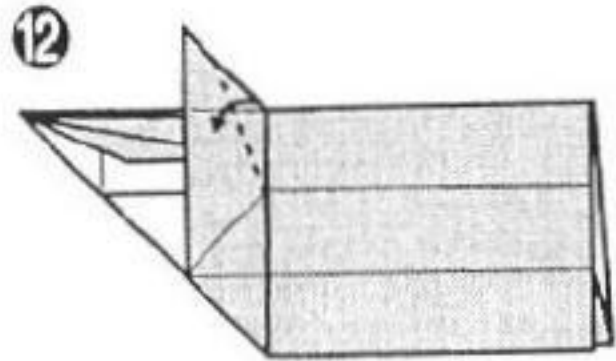
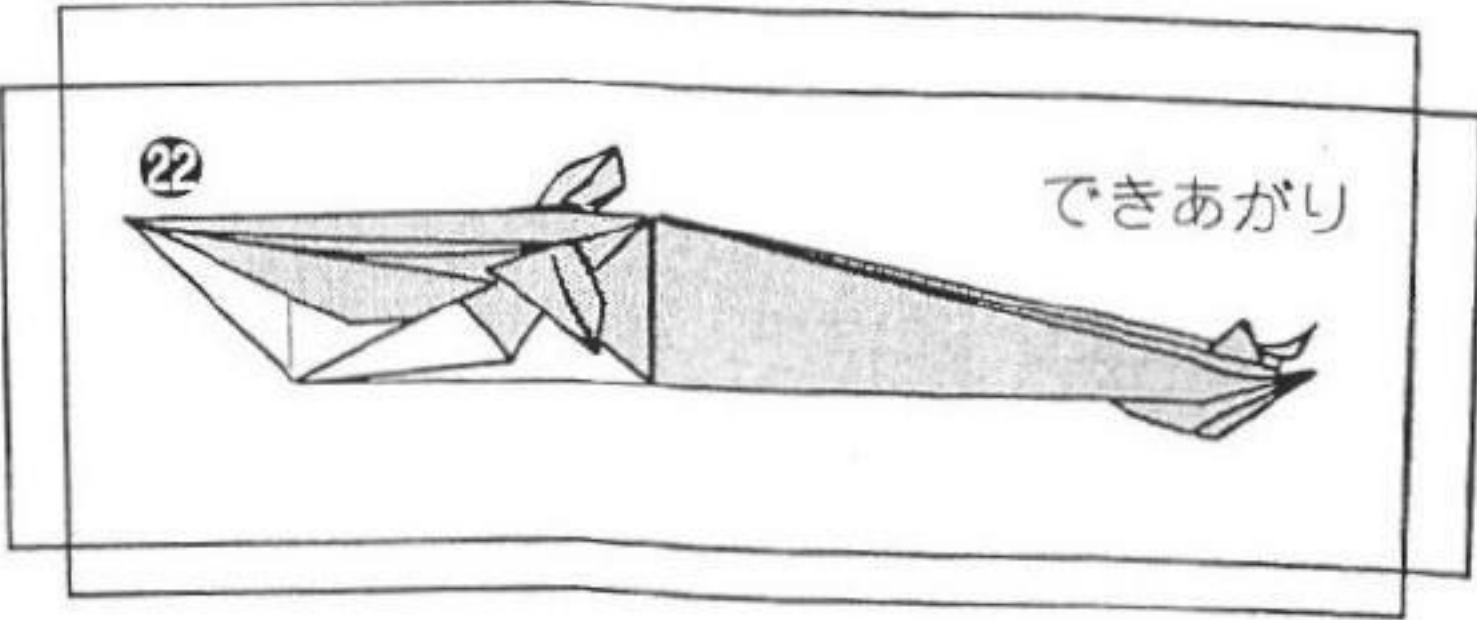
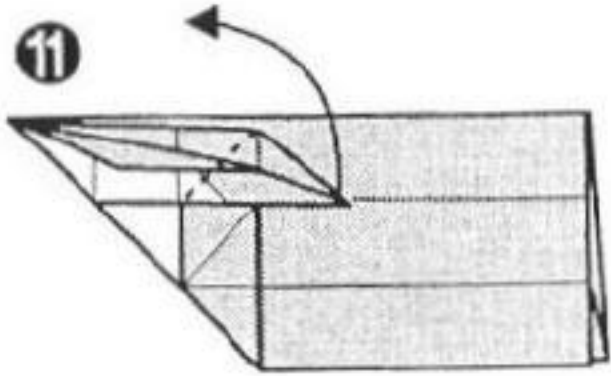
4



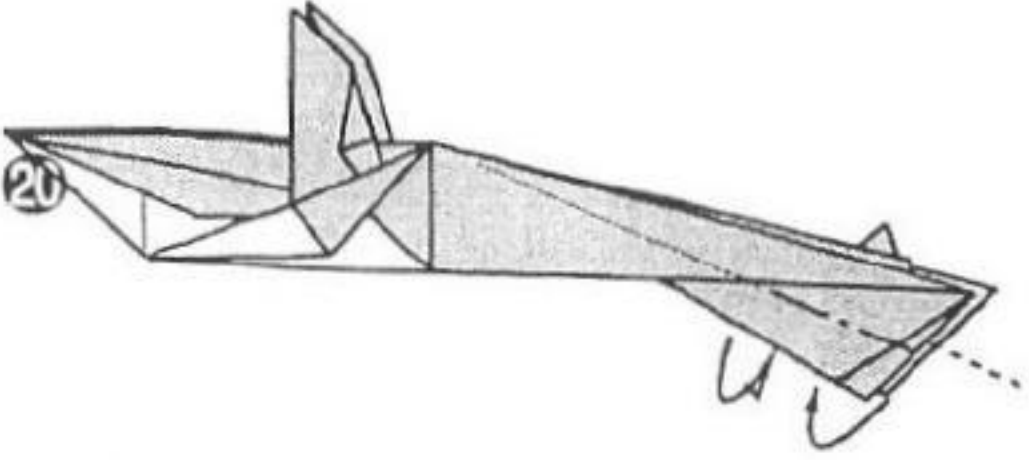
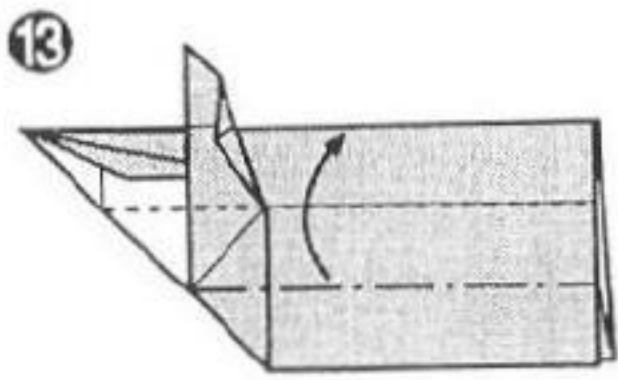
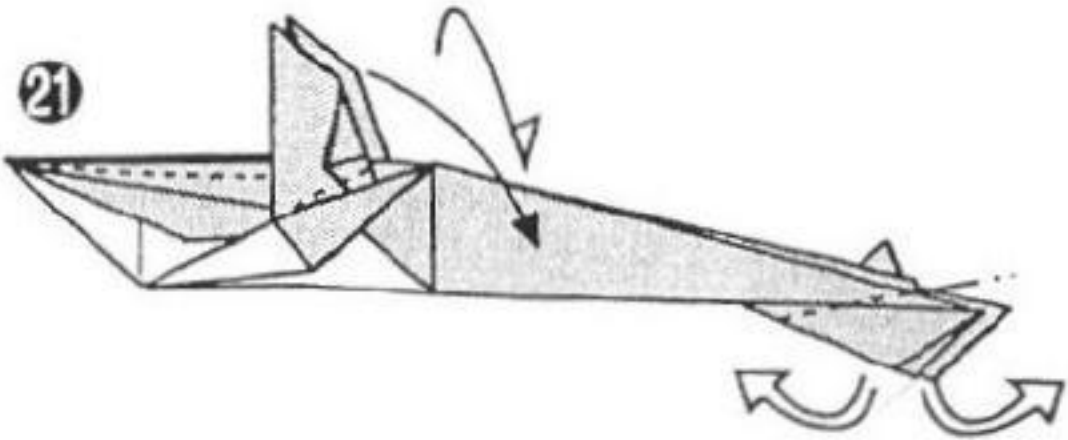
6

5

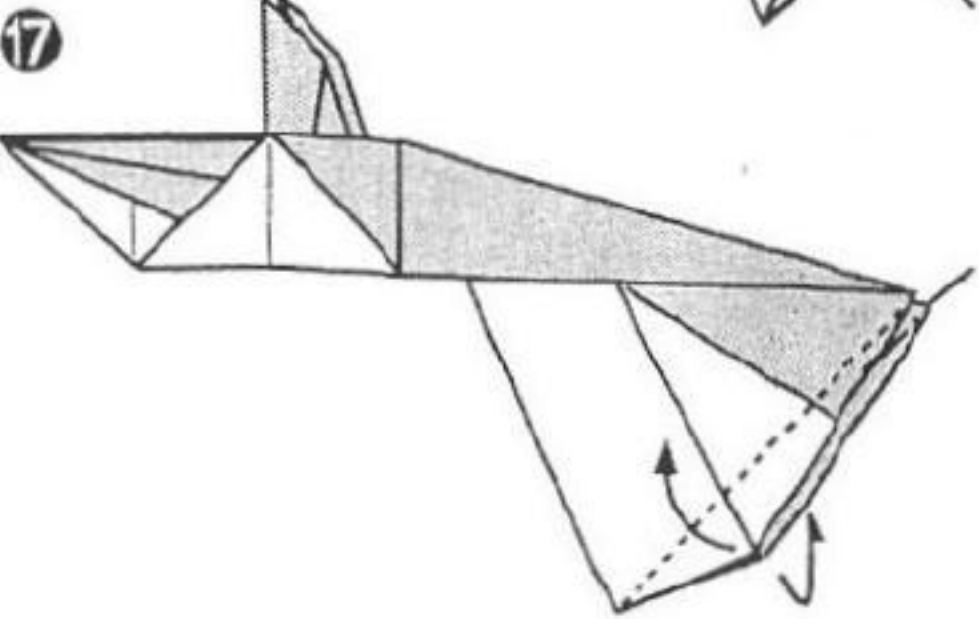
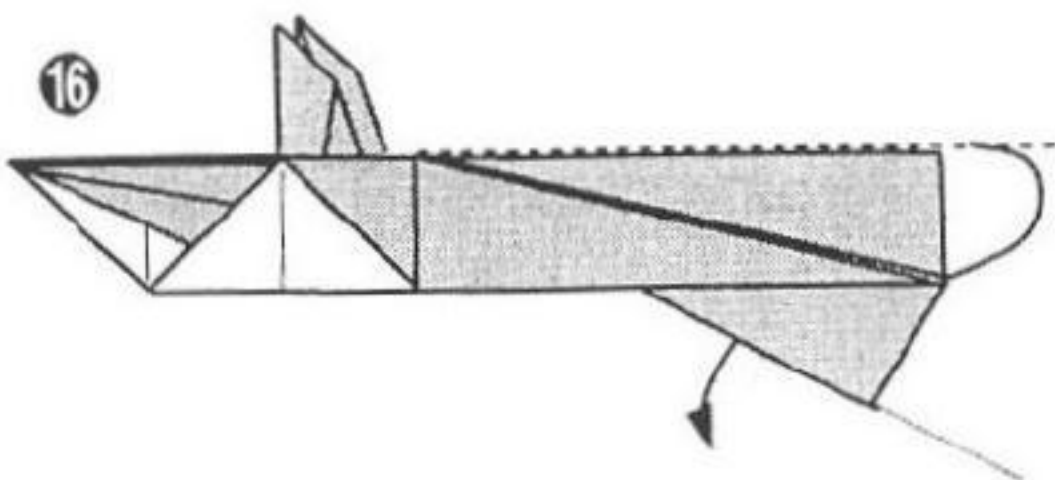
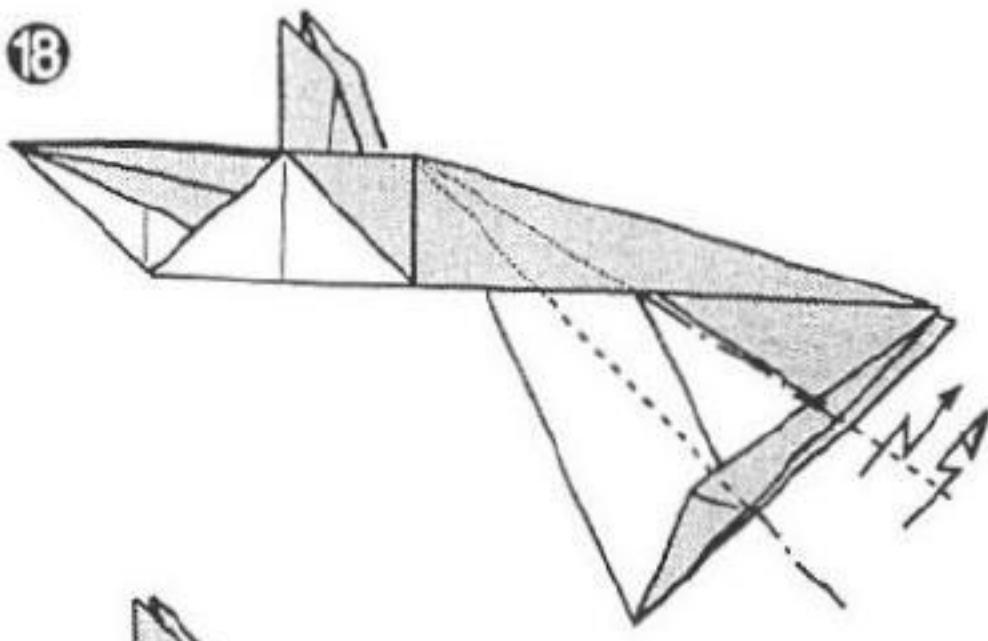
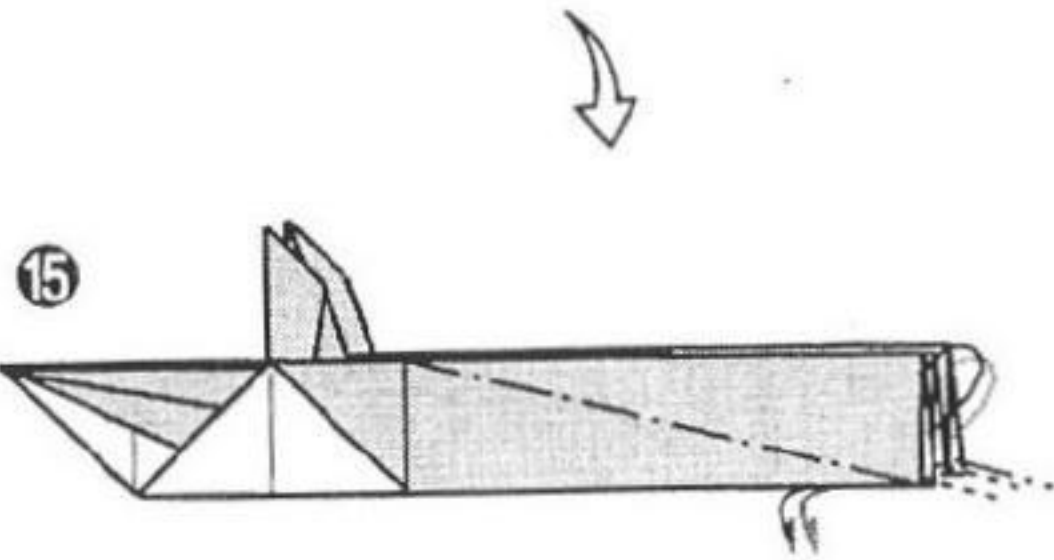
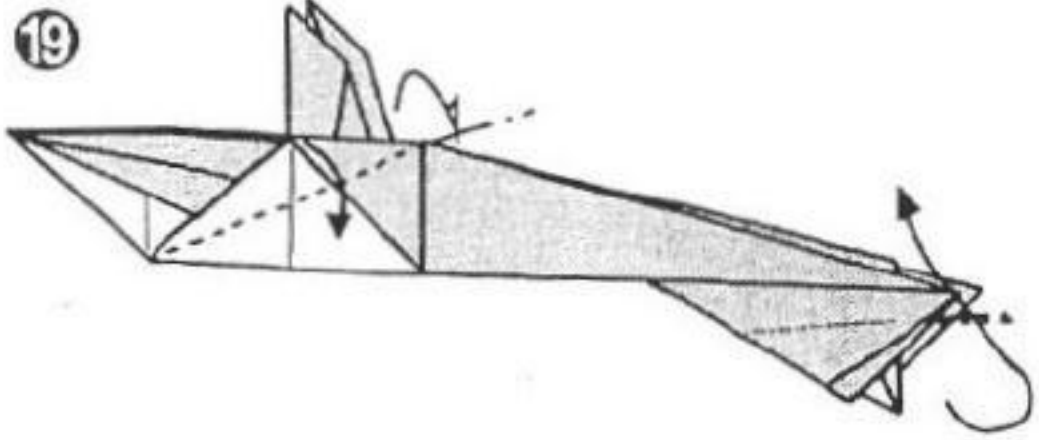
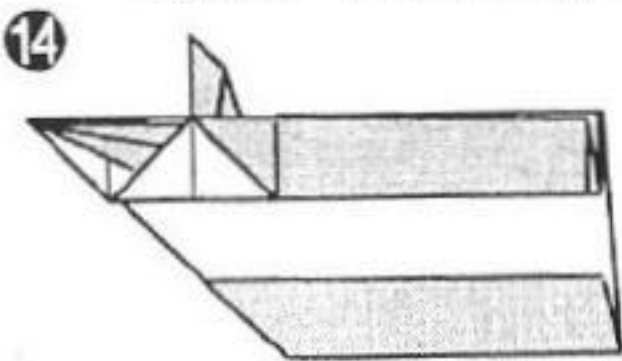




立体的に仕上げる



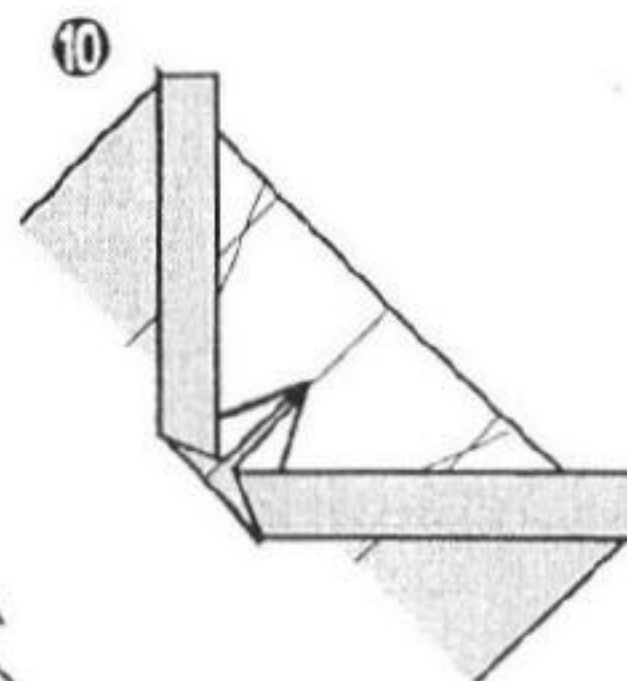
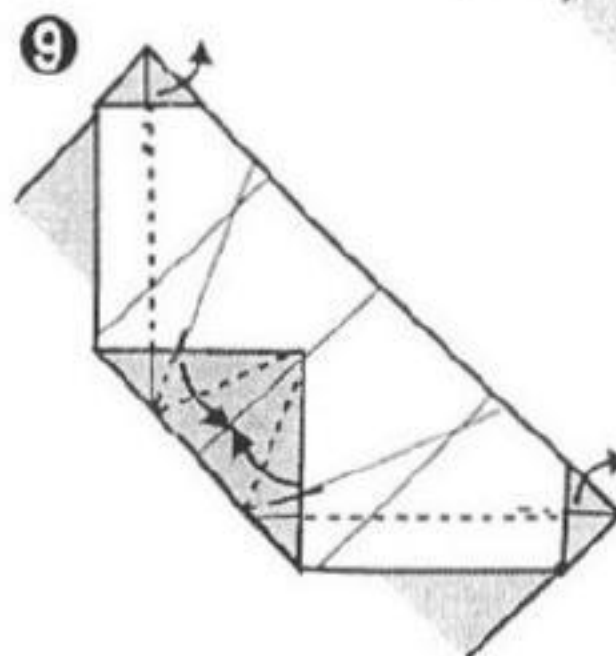
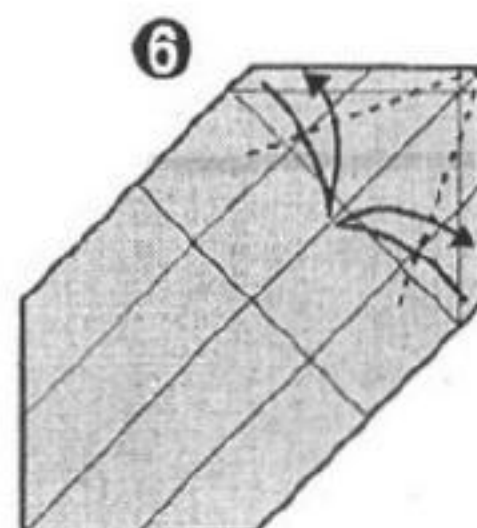
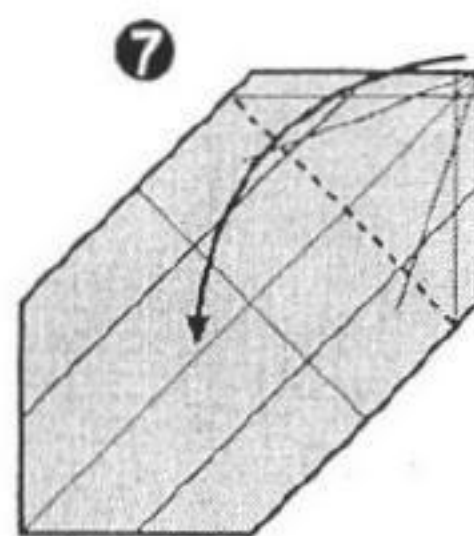
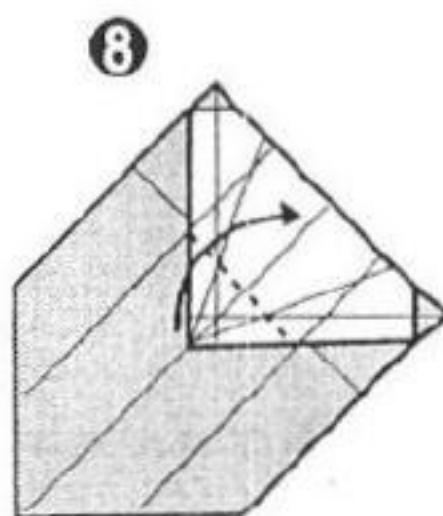
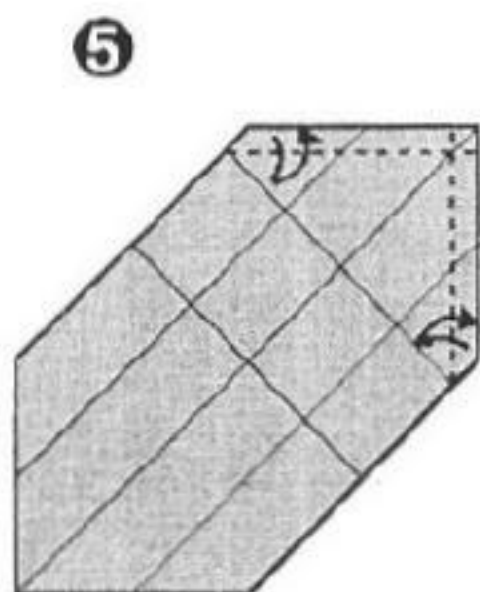
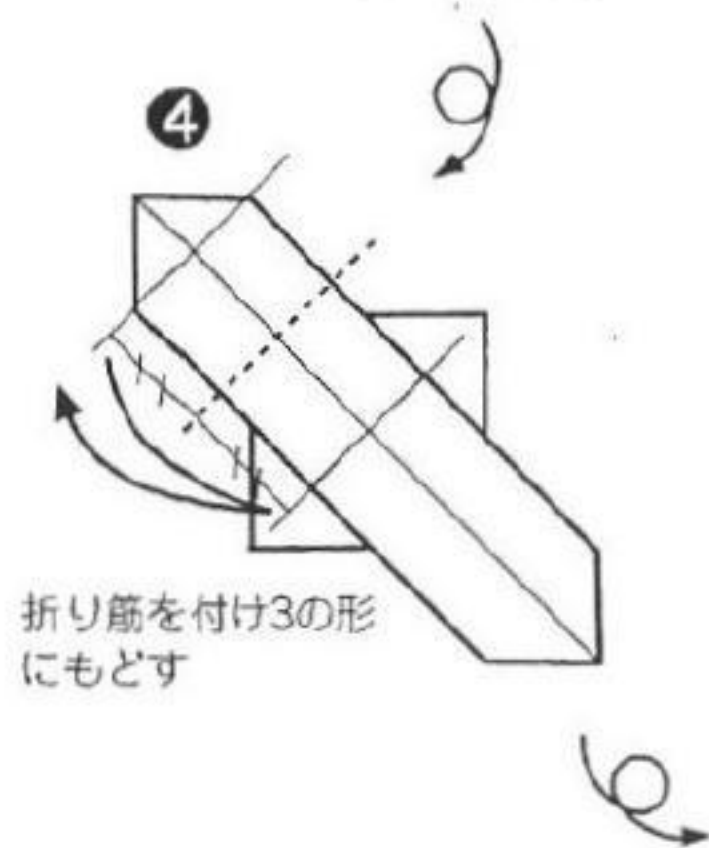
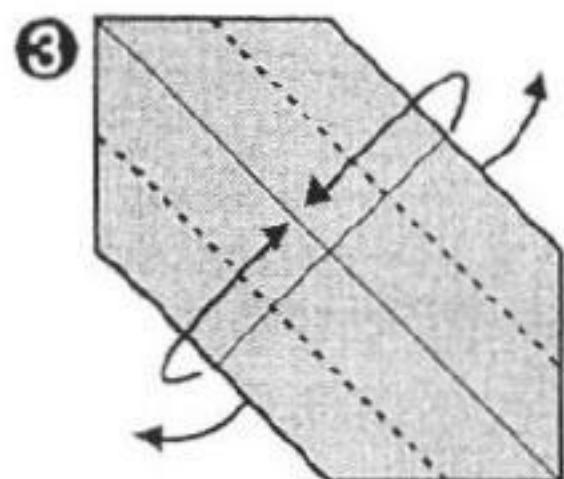
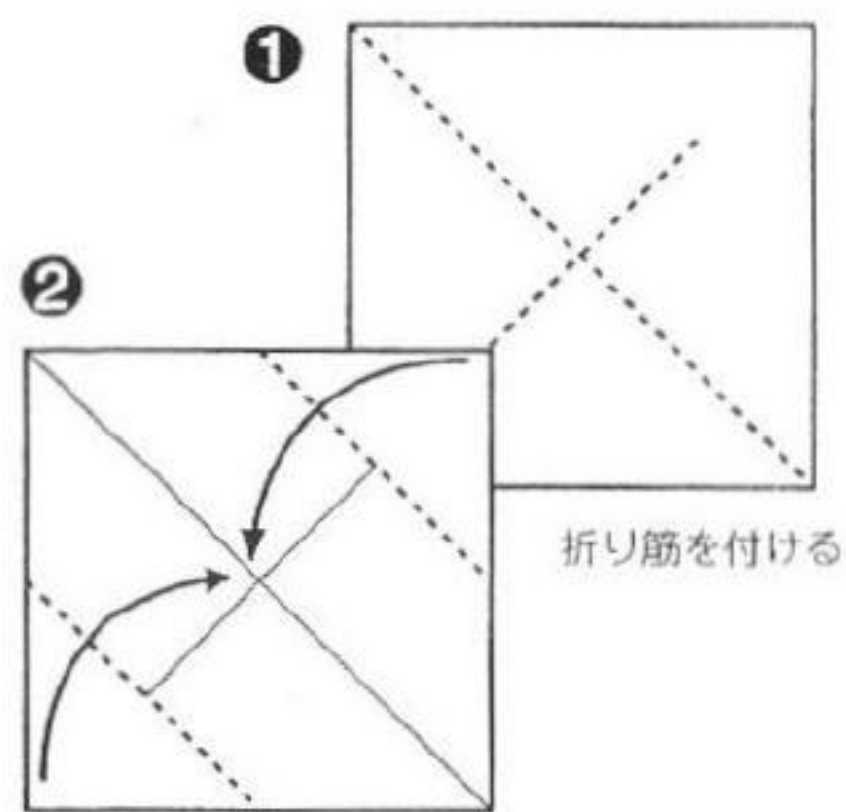
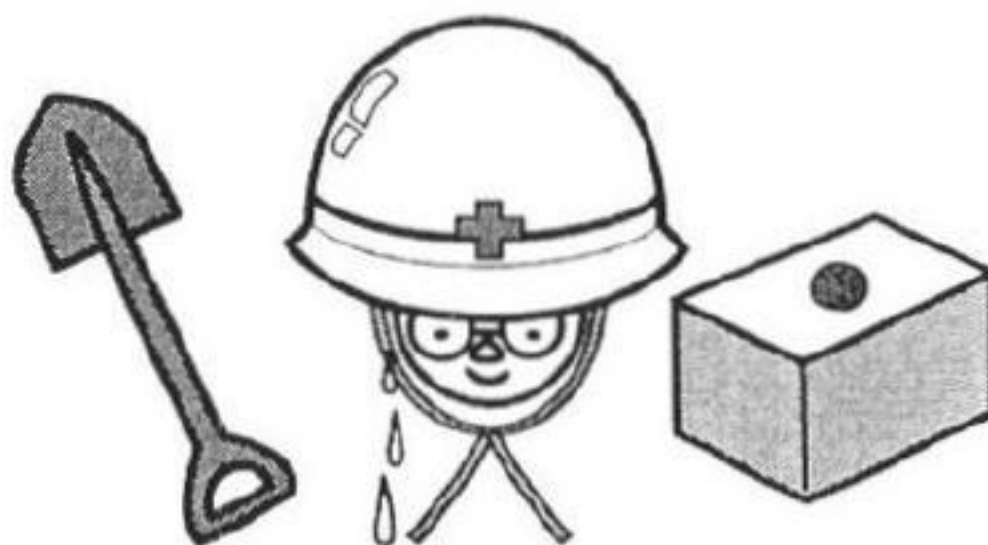
裏側も8~14のように折る

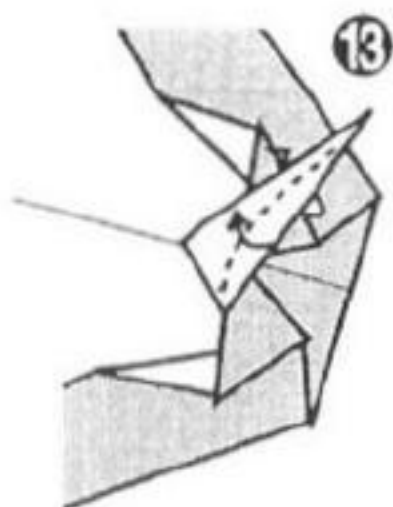
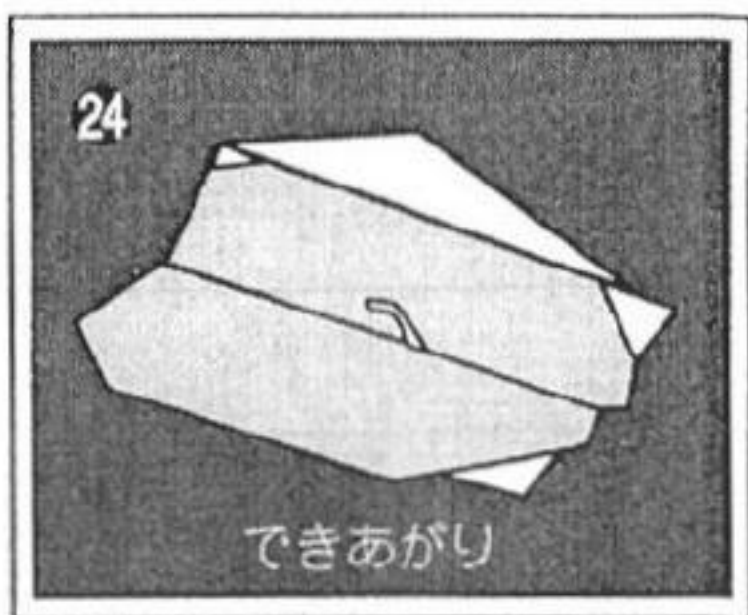
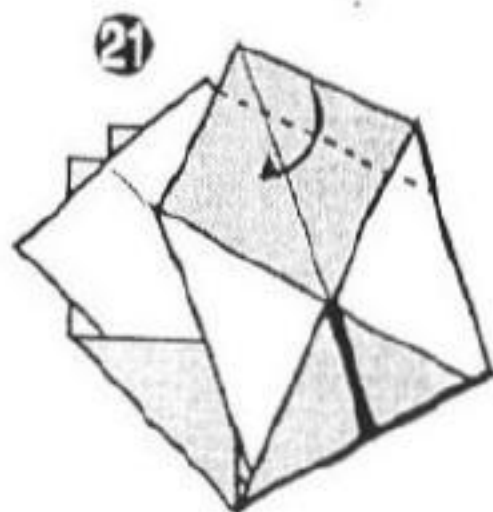
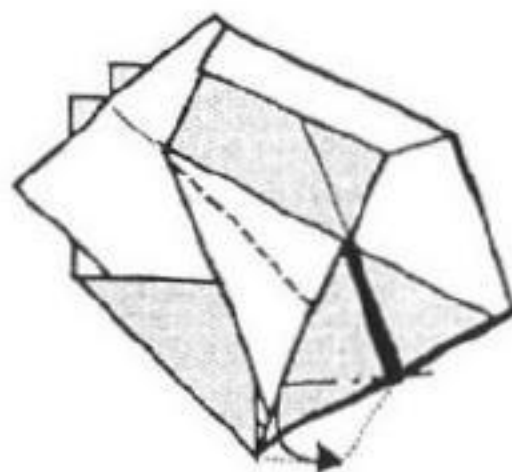
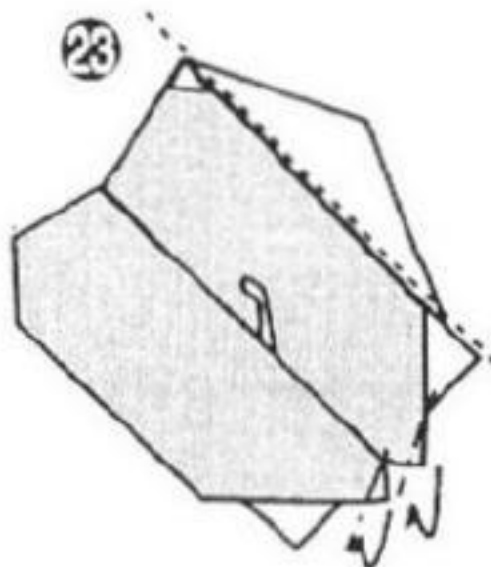
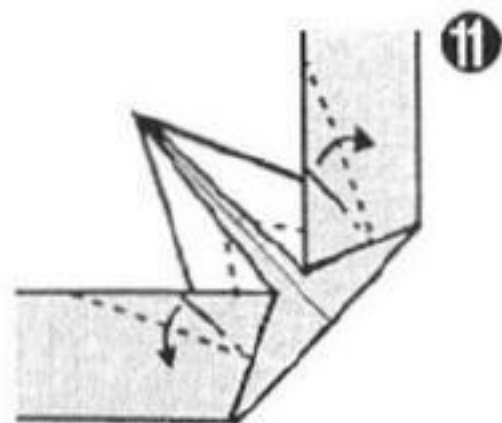


やまだ監督の 日の丸弁当2

創作・作図 山田勝久

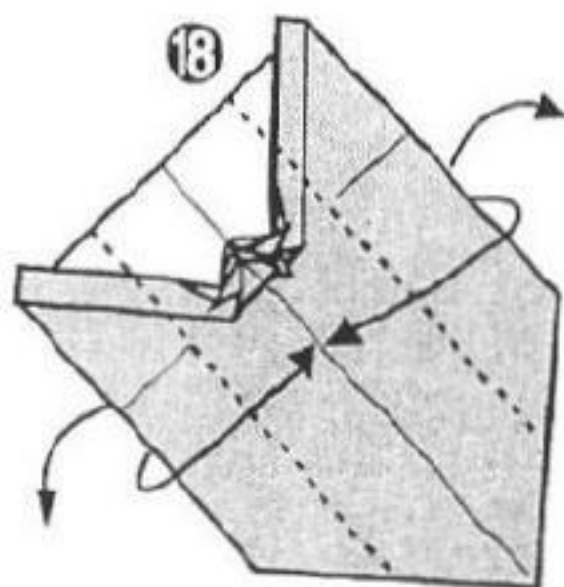
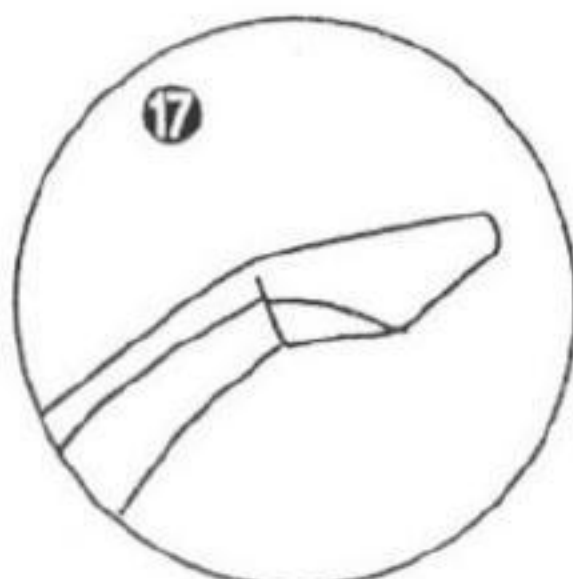
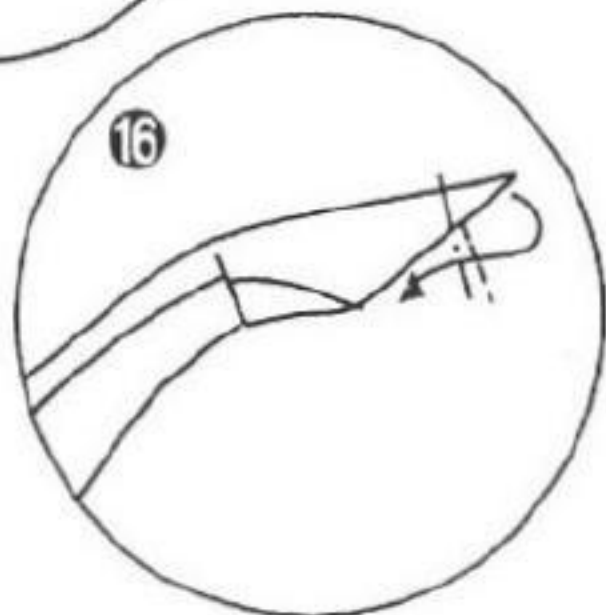
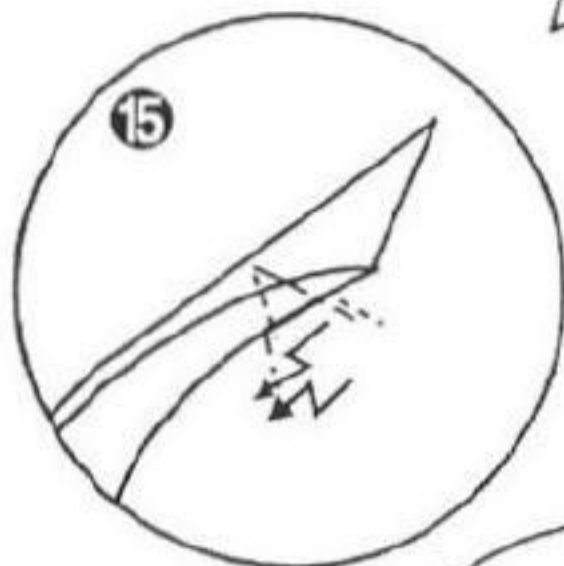
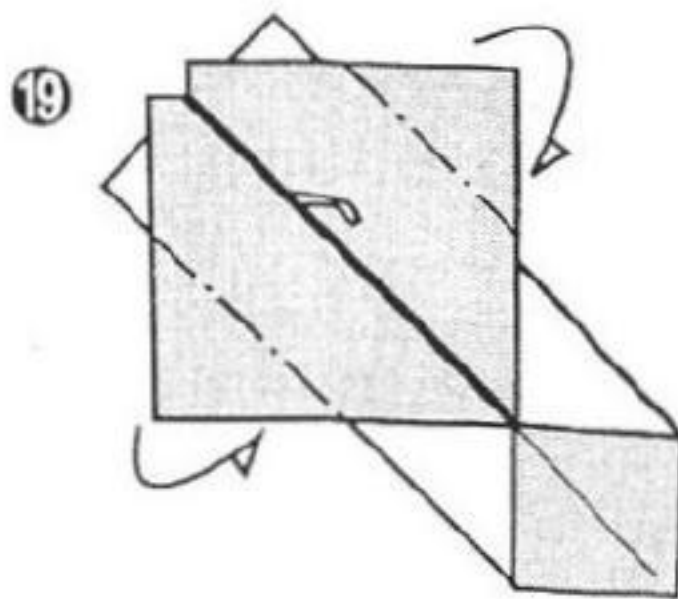
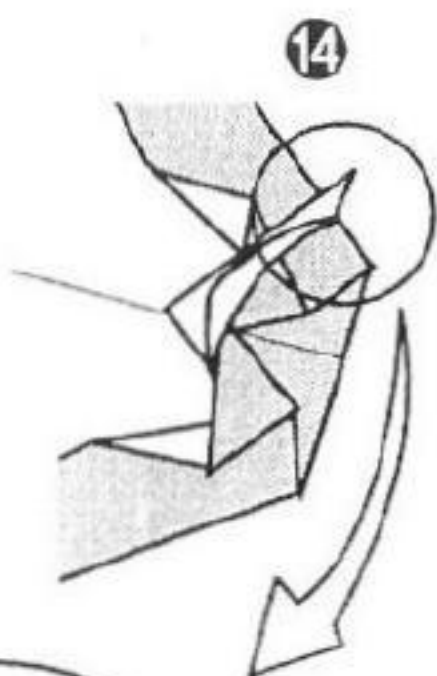
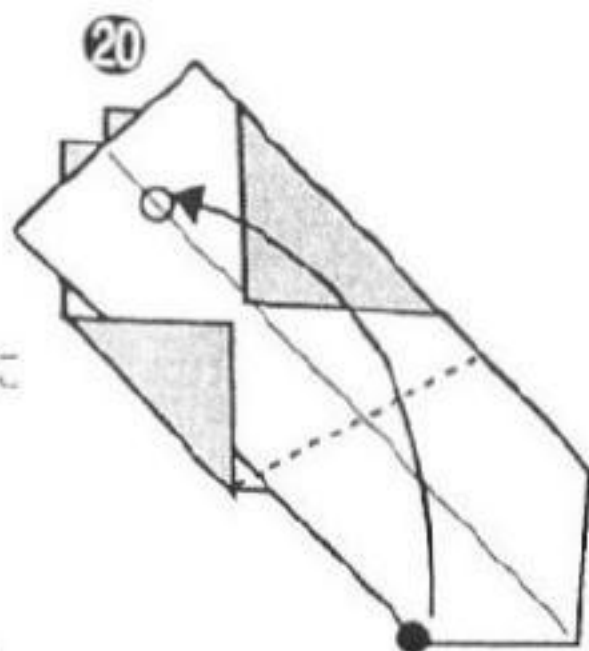
ネツシー



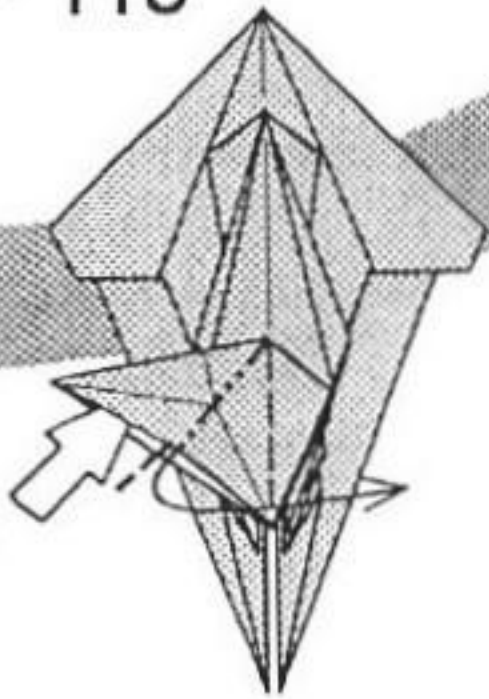


つまむように
折る

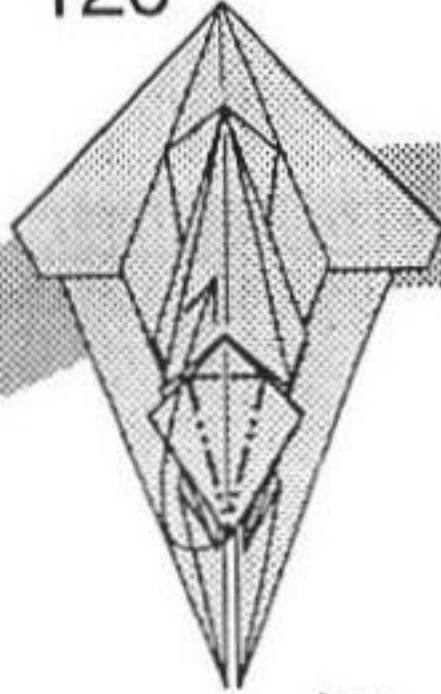
●を○の線上に
合わせる



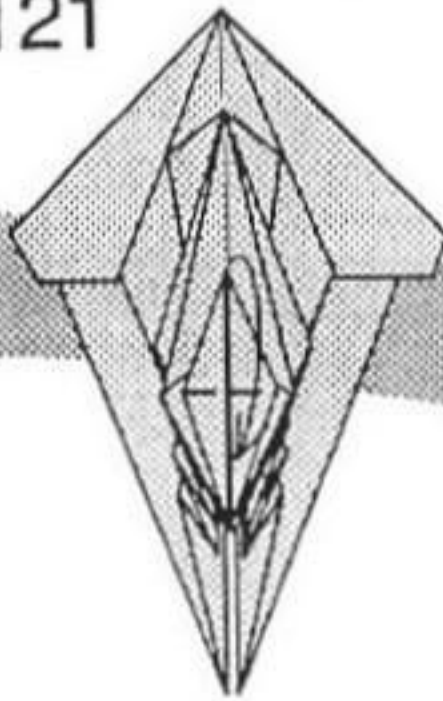
119



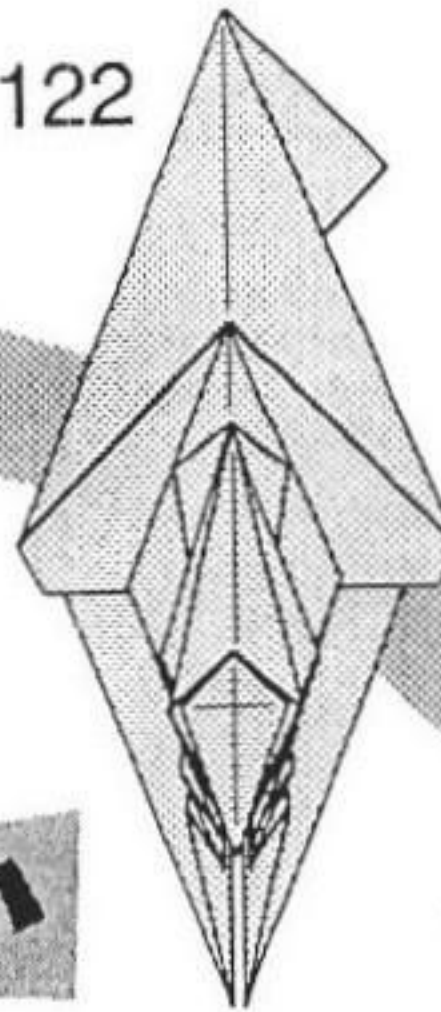
120



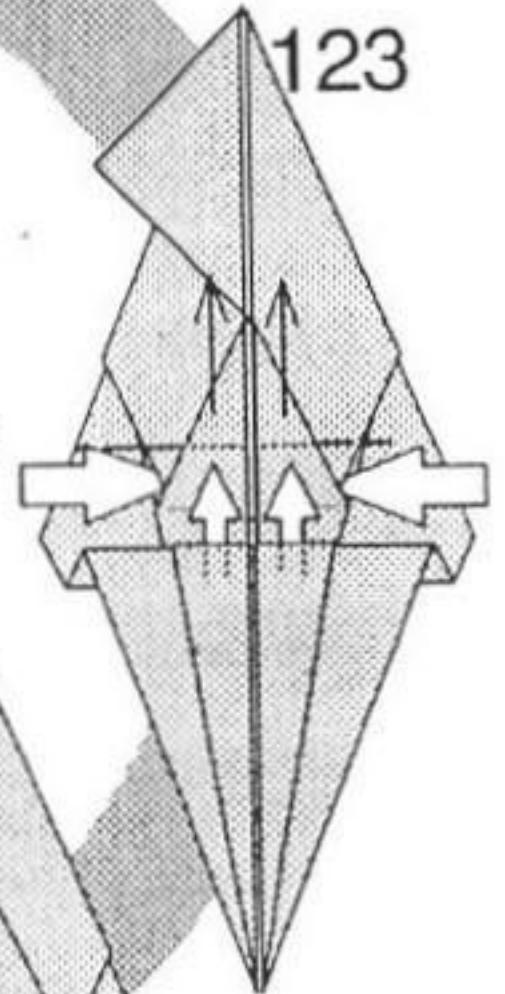
121



122



123

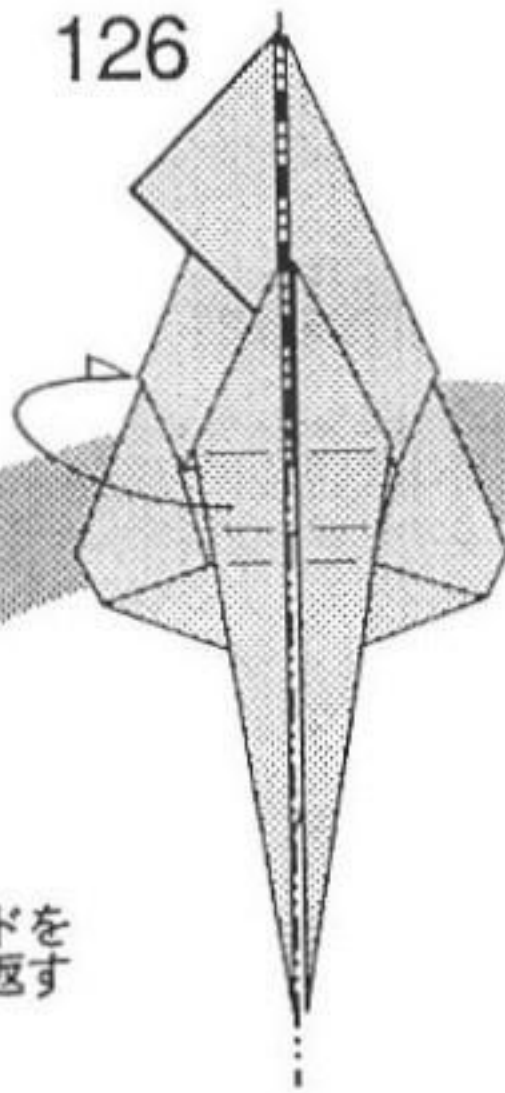


えぞしか

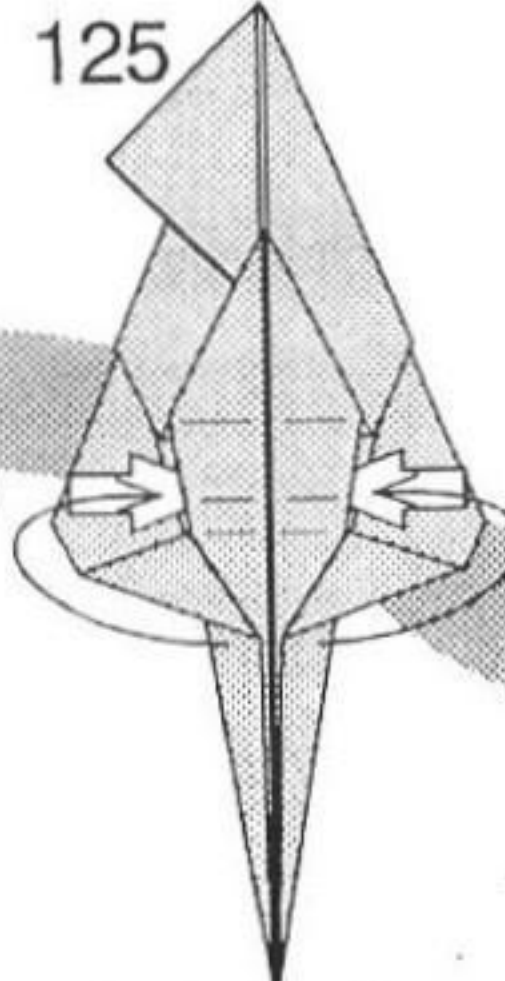
連載第3回

川畑文昭

126

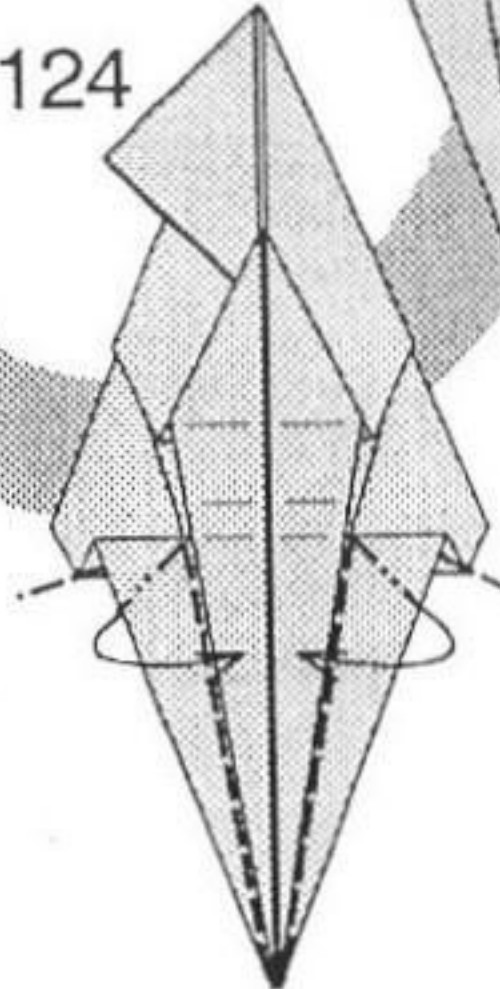


125



カドを上側に引き出す

124



127



内側のカドを下に折り返す

124で折った部分を下に入れる

128

中わり折り

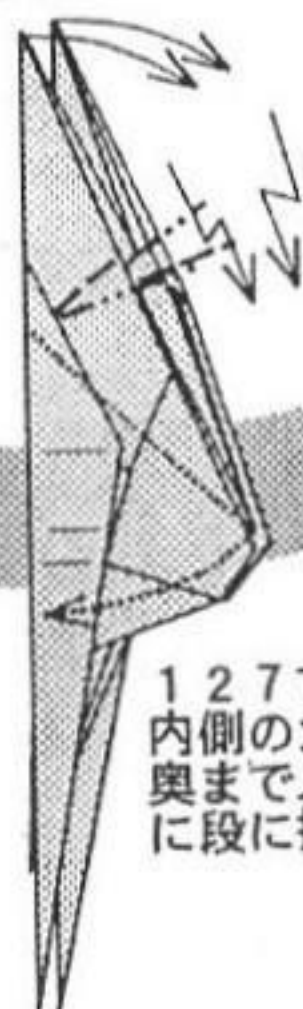


129

中わり折り



130

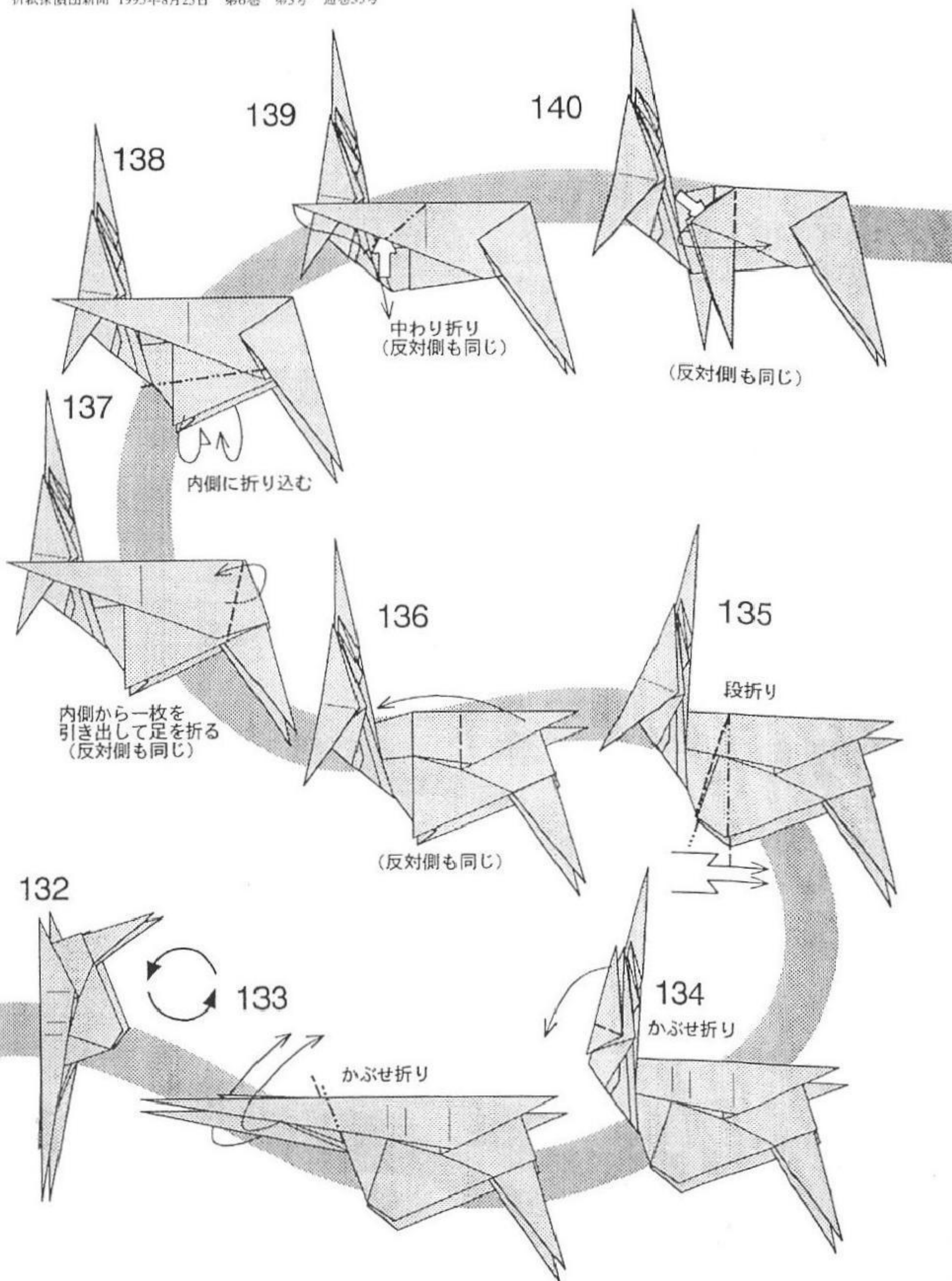


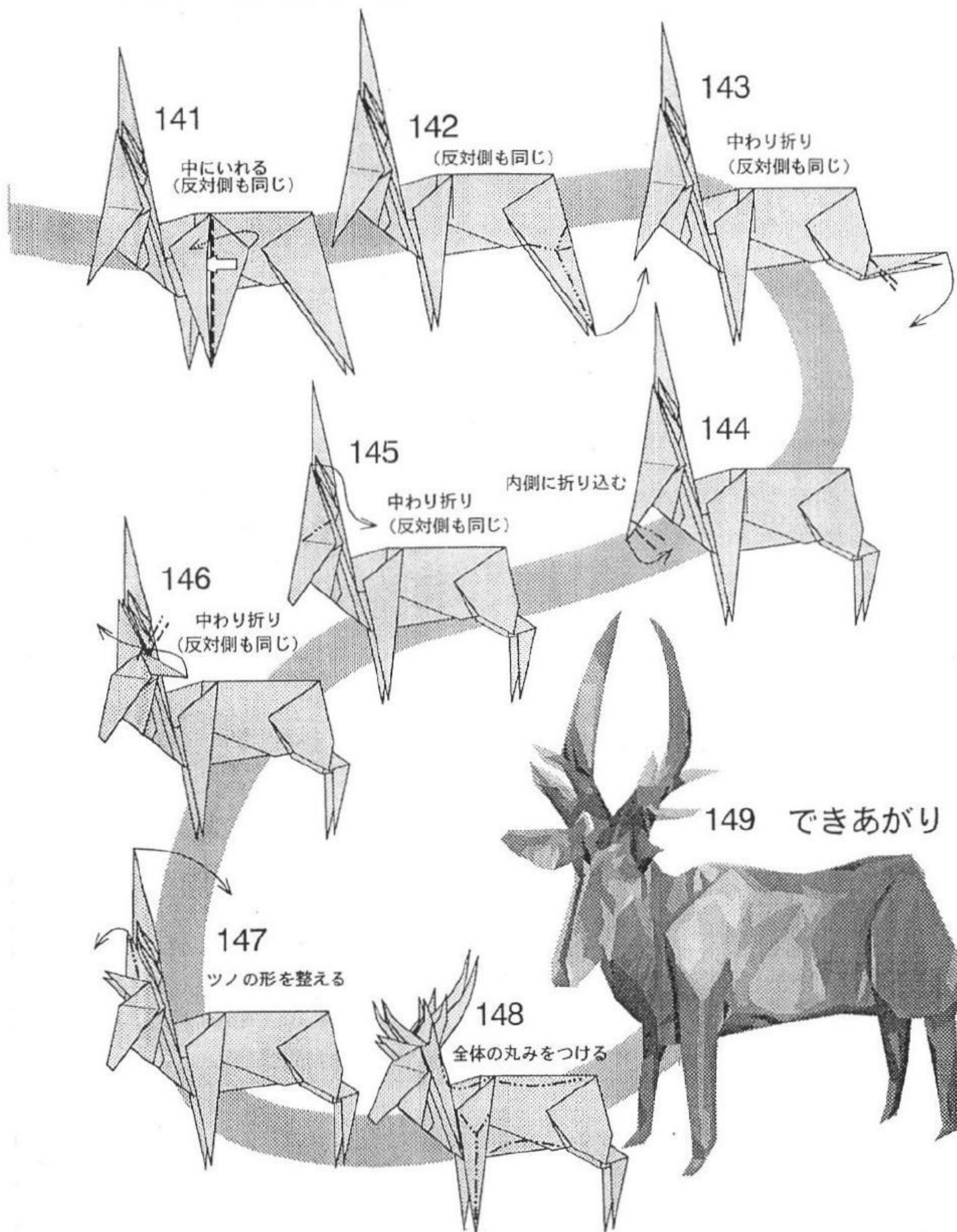
127で折った内側のカドを奥まで入れる様に段に折る

131

さらに段に折る







TVチャンピオン 第1回折り紙王決定戦

朝までウラ話

前編

聞き手：Cauchy Rault Hertley
聞かれ手：羽鳥公士郎

先日放送された『TVチャンピオン』の出場者の一人、羽鳥公士郎さんにお話を伺いました。今回は主に自身の作品についてです。

―出場したきっかけから伺います。
「山口さんから突然電話があって、出場しないかっていうんですよ。あまり乗り気じゃなかったんですけど、頼まれると嫌とはいえない性格なんですね。でも、結局そういう人ばかりが出場したということじゃないですか。」

―第1回戦は創作童話勝負でした。
「最初電話があったときは動物園で動物を折るという話だったんです。誰の作品でもいいというので、必死になってモンローさんのキリンを一晩で覚えたんですよ。そしたら次の日に制作会社から電話があって童話を表現するというんですよ。もう、がっくりきましたね。」

―なぜ「鏡の国のアリス」に？
「最近読んだから、というだけなんですけど、川畑さんのユニコーンを折りたいということはありません。全国の皆様、折り紙でこんな凄いことができるんだぞ、と。(笑)」

「鏡の国はチェスが下敷きになっているんですね。90センチ四方の台を使うというので、台を一杯に使って鏡の国を再現しようと考えたんです。いろいろな色の紙を並べてチェスの国にして。そしたらまた次の日に制作会社から電話があって、下に布を敷くので希望の色があったらいいってくれていうんですよ。それでまたがっくり。結局ユニコーンが出てくる場面だけに。」

―大変だったんですね。

「僕なんかまだいいほうですよ。西川さんなんか、『チビクロサンボ』をやろうとしたそうです。でも『チビクロサンボ』は差別的だということで使えない、という電話があったのが前日の夜だそうですよ。でも一晩であれだけのものを作れるんだからさすが団長ですね。」

―折った作品についてですが…。

「ユニコーンは、後足と尻尾の三本で立つように調節したつもりだったんです。家で折ったときはうまくいったので当日は紙だけしか持って行かなかったのですが、なかなか立たなかったんです。時間はどんどんなくなるし、頭の中は真っ白だったんですが、山口さんがこっそり針金を持ってきてくれたんです。ああいう瞬間に宗教に誘われると入っちゃうんでしょね。(笑)」

「ユニコーンに釣り合うライオンを探しておりがみはうすを物色したんですが見つからなくて。吉野さんの『虎』の、顔の位置を中心からずらしたらどうなるかと思って帰りの電車の中で折ってみたら、偶然分子配置がぴったりはまったんです。」

「人物を折るのは難しいのでアリスと白の王様はチェスのコマにしちゃおうと。白の王様はモンローさんの作品そのまま、アリスは王様の冠になる部分に紙の裏を出して金髪の女の子にしたんです。納得のいく作品ができたのが前日の夜で、それから紙を切って色を塗ったら夜中の2時になってしまっ。翌日は朝の6時に起きて朝食も食べずにテレビ局に行ったんです。」



「ユニコーン+ライオンとアリス+白の王様の対比ということを考えました。つまり有機的な作品と無機的な作品ということで、前者はレザック75で複雑な折り、後者は模造紙で単純な折りになっています。」

「形が主役になりますから、色は控え目にしました。基本的にはユニコーンが青、ライオンが赤、アリスが黄、白の王様が白という組み合わせですが、すべて中間色系のパステルカラーでまとめて、下地の布も薄茶色のものを用意してもらいました。全体としてはイメージ通りにできたと思いますし、テレビ映りもよかったですね。本人のテレビ映りは悪かったですけれど。(笑)」

―折っている途中、司会者は…？

「みんなを回って話を聞くんですが変なことを聞くんですよ。両親の学歴だとか、いま折ってるのは何と言う折り方か、とか。ユニコーンをほとんど折り終わった頃に、広げて見せてっていうんですよ。一時間かけておったのに。」

―残念な結果に終わりましたが。

「結果には納得しています。細かい部分は自分なりにしましたし、それでも佐野さんと山口さんには高い評価をしていただきました。童話作家の方の点数が低かったのですが、それは折る場面を決めた時点で覚悟していたことでした。『鏡の国のアリス』には、物語全体を象徴する場面というのがないんですね。物語を表現するには最初考えたように鏡の国全体を折るしかないんです。」

「でも山田さんは大分残念だったようで、『連鶴を折っているパンダ』を折ってきて、おりがみはうすに置いてありますよ。」

―撮影の後はどうしてたんですか

「第2回戦も見物してました。第1回戦の撮影が終わったのがお昼過ぎで朝から何も食べてなかったのでおなかの空いていたんですけど、移動する車中でお弁当を食べなければならなかったのが1人前しか食べられませんでした。」

「決勝戦の撮影は次の日だったんですが、それも行きました。バイトがあ

る日だったんですが、ギャラが給料より高かったのが2日間休みをもらったんです。この日のお弁当はもちろん2人前食べました。(笑)」

―次回は2回戦以降の解説をしていただきます。

95折紙シンポジウムin長野

に参加して

川畑文昭

7月30日から8月1日の3日間日本折紙協会主催の恒例折紙シンポジウムが行われた。今回は長野県戸倉上山田温泉という静かな温泉街での開催であり、参加者も今年はずいぶん200名を大きく越しアメリカからもジャン・ポーリッシュ女史を招待するなど大盛況であった。この詳細はNOAの雑誌おりがみ、あるいは部会報告という形で正式に報告されると思うので、そちらにおまかせすることとして、今回はそのなかで繰り広げられた様々な出来事について緊急レポートを行いたい。

シンポジウム初日、午後の部に行われたのは大ゲーム大会であった。まずピョンピョンガエルの飛び比べ大会。ここで吉野、川畑、田中の3名は無謀にも新カエルの創作に取りかかり、とくにバネ定数にこだわった田中号は練習では楽に1メートルを越す大飛行を繰り返していた。しかしながら、競技直前に参加資格は伝承カエルのみというルールがあき

らかになり、ここであわてて折り直し。結果は田中・上の方に20cm（田中さん前に飛ばそう）、川畑5cm、吉野-3cmという惨憺たるありさまであった。（なお新作新兵器カエルはちゃんともらわれていました）。カエルでの汚名を返上しようと次に挑んだのがテーブル対抗金魚の量産競技であった。制限時間5分でもくもくと（その次の競技がこの作った金魚を全部早く釣ったもの勝ちということを知らずに）作りまくった数はおよそ70匹。これは優勝かと思ったが、残念ながら3位に甘んじてしまった。どうも優勝したチームは20名位で折っていたらしい。13名だったわれわれのテーブルは一人あたりの生産量では勝っていましたよ。きっと……。また紙相撲選手権では関西の折り師土戸山が決勝ラウンドまでいったが、どうやらあっさりと敗れたらしい（というのも決勝が遠

くの方なので土戸山選手がうなだれた姿しか確認できなかった）。初日の夜には先日のテレビチャンピオンの模様も放映され、榎本さん（の馬）が大人気、山田選手も、自分の奮闘姿を“もの静かに”見ていた。

2日目、なんといっても、もりあがったのは宴会であった。長野県にゆかりのある人10名位で宴会のステージを盛り上げようと小林さん、布施さんを発起人として私川畑も参画し、壮大な踊り計画が持ち上がった



講演もした証拠写真（だれだかわからんが）

95年度探偵団会員データ

さて、今年の探偵団会員データです。（8月7日現在・会員数408人）

1.現住所

都道府県別（381人中）

当然ながら東京が1位で106人2位神奈川40人3位埼玉32人4位大阪25人5位千葉21人です。以下人数順に愛知・兵庫16人、新潟12人、茨城・静岡10人、北海道9人、京都・広島7人、長野・栃木5人。4人以下は省略します。1人もいないのは青森、

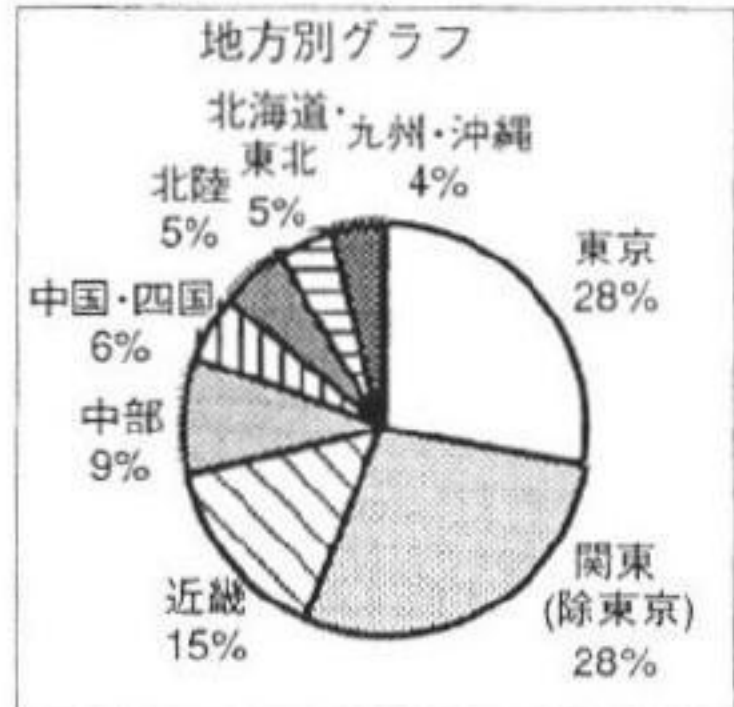
岩手、和歌山、愛媛、香川、宮崎でした。地方別データは円グラフを見てください。

海外在住者は27人で、イギリス9人、アメリカ6人、スペイン・ドイツ・オーストラリア各2人、ノルウェイ・ポルトガル・スイス・台湾・カナダ・マレーシア各1人でした。

2.年齢（329人中）

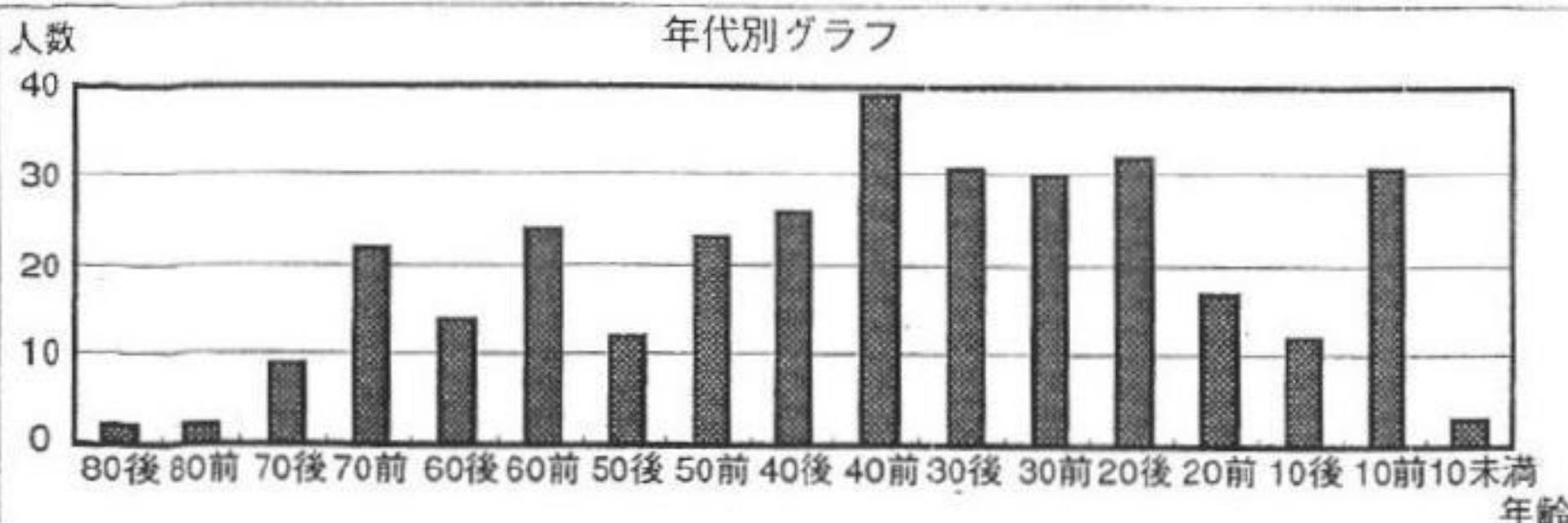
最年長は神奈川県岡上新一さん（1908.12.20）最年少はやはり神奈川の石川森里くん（1987.10.19）

生年別でもっとも多いのは1962年で11人。2位は47・53・54・57・81年で9



人、23・51・55・66・67・69年が8人、24・41・48・82年が7人と特定の年が突出しているという事はないようです。

年代別グラフは5歳ごとに分けました。今年12月31日での年齢で分けてあります。十代後半が少ないのがさみしい。（受験か？）



たのであった。酒に酔ってあんまり覚えていないが、布施さんは踊りまくっていたようだ……。なぜかその場にたまたま居合わせただけで巻き込まれた不運の関西の勇、田中まさひこ氏もステージで踊りまくっていた(らしい)。また、遠藤先生も奥さんが長野県に縁があるとの理由で突然ステージに乱入、個性ある踊を披露していた(らしい)。また川崎さんちにご長女ご誕生の大ニュ

ースもこの日に届けられました。本当におめでとうございます。

3日目、私も初めての講演をしてしまった。折り紙の話しそっちのけで、どうも昔自分がバレーボールをやっていた、そのとき本シンポジウム開催地の地元戸倉上山田中学に負けた話ばかりしてしまったようだ。そこへいくと、布施さんはさすが慣れたもので、ユニットの可能性を大変面白く述べられていた。ジャン、

ポーリッシュ女史のお話しもよかった。

最後に、今回もこのシンポジウムにこれからの折り紙を背負ってたつ若い10代のオリガミアンが多く参加していた。そういう彼等により多くの刺激をあたえ育てることも、折り紙探偵団の役割だと思う。そういった意味で、探偵団からの参加者もさらに増えることを切に願う次第であります。おしまい

で、ぼくたちが折り紙の将来を背負ってあげる

訳だ という中学生たちだよ

僕は、去年の十月から月刊おりがみを購読し始めて、初めて「折紙シンポジウム」と言うものがあるのを知りました。最初は、気軽に参加すると言っておきながら、日が近づくにつれて「周りの人達と上手く付き合っていけるだろうか」や「次回も参加しようと思っているけれど、一人ぐらひは顔見知りになれるだろうか」など、心配なことがいくつもでてきましたが、実際参加してみると僕とだいたい同年代の子が数人だったけどいたからホッとしました。

参加する前はいろいろと心配していたけれど、参加してみるとみんな付き合い易い人達だったので良かったです。これからも折紙を続けて、創作にも力を入れてみんなに広めたいと思います。

釜島佑一

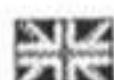


毎度の事ながら「また背が伸びたね。」で始まったシンポジウム。今年は本当にうるさくて楽しいシンポジウムでした。原因はみなさんも分かる通り、変な中学生木下君。探偵団はすごい掘り出し物を見つけたと思いました。中学生参加も五人と多く、この出会いはとても思い出に残るものとなりました。来年のシンポジウムも楽しくなることでしょう。

野口直人

これが今 問題-話題の
木下(洋式便器)剛くんた。
後ろには野口くんもいるぞ

1995年7月3日



真さんへ

暑い暑いロンドン(38℃)からこんにちは。イギリス人には暑すぎる!折紙探偵団の皆様にもこんにちは。

私は『プリティッシュ・オリガミ』誌の新しいコラム「インターナショナル・ニュース」を始めることになりました。『プリティッシュ・オリガミ』は価値ある国際的な雑誌ですが、困ったことに、今のところ国際的ニュースがないのです。

そこで、折紙探偵団やおりがみはうす、個人的な活動、例えば本のニュース、展示会のニュース出版のニュース、教室などなどの記事を探しています(英語でお願い)。写真、コピー、絵も歓迎します。みんながネタを私に送れるように、このことを折り紙のお友達にも伝えてください。

最初のコラムを書くのに、すぐにニュースが必要です。何かないですか。

日本にいったことは素晴らしかったと同時に価値あるものでした。私は多くの新しい考えと多くの新しい友達を得ました。

あなたが私の新しいコラムに貢献できることを願って。敬具。

ポール・ジャクソン(訳:羽鳥公士郎)

探偵団ホームページ

お試し版

Data Transfer Complete

●インターネット研究ご協力をお願い

1年前まで「インターネット」と言えば一部の理系の学生がコンピュータ企業の技術者くらいしか耳にしたことのないような言葉でしたが、今や居酒屋で管理職とおぼしき年齢のひとたちの口に昇るようになりまして。とりわけ「WWW」(ワールド・ワイド・ウェブ)という視覚的な情報提供サービスはインターネットをより身近なものにしてくれました。

このWWWに情報提供をするためには設備も画像情報の蓄積も必要ですが、幸い折紙探偵団では既に入力された折り図の画像情報がたくさんあります。これを利用して「折紙探偵団ホームページ」を創ろうか、という話が持ち上がりました。探偵団新聞の内容を先取りした作品の展示や、各種行事の速報など、記録性の高い紙のメディアとの補完を図ることも考えられます。

つきましては折紙探偵団の中に「インターネット委員会」のようなものを作り、世界への情報提供に向けて準備・調査を行うことになりました。この分野に明るい方、環境をお持ちの方のご参加をお待ちしております。折紙探偵団事務局までご連絡ください。

(文責:中西健一)

おりすじ

わが家のオリキチ
野中陽子



「創造的な仕事というのはいいいね」と、私が展覧会の作品づくりをしているとき、日頃は無口な息子が言う。彼は現在、大学院で制御工学とやらの研究をしているが、20年前の幼稚園の頃は折り紙に夢中だった。多分ゲーム感覚で楽しんでいただろうが、本を見ながら余り熱心に折るので、家族は彼をオリキチ（折紙気遣いの略）と呼んでいた。

当時、私は下の二人の娘の世話と短歌作りに忙しく、折り紙にはほとんど興味がなかった。それが数年後ボランティア活動をする上で、必要に迫られて習いに行き驚いた。そこで私は笠原邦彦さんのパンダに出会ったのだ。折り込む過程のユニークさ、出来上がったパンダの愛らしさ！折り紙とは一枚の紙に命を与えるものと知り、わが家のオリキチ第二号の誕生と相成った。

その後NOAの会員となることで沢山のひと々と作品に出会い、遂に娘時代から三十年近くも続けてきた短歌を離れ、今では折り紙に触れない日の方が珍しい。

一方、息子は成長と共に折り紙から離れ、プラモデル、天体観測から物理や化学の方面へと関心が移っていったが、今も良き理解者であるこ

とには変わらない。

短歌と折り紙には共通点がある。短歌は三十一文字の定形の中での自己表現であり、折り紙も正方形という制約の中に無限の可能性を求める造形活動で、共に日本の気候風土の中で育まれて来た伝統文化であること。

歌をやっていた頃は、毎月原稿の締め切りに追われた。一ヶ月何十首も作る同人もいたが、私はいつも十首そこそこの寡作で、先生によく叱られた。それでも続けることに意義ありと開き直って続けたのは、創作する喜びが何者にも替えがたいものだったから一。

折り紙は毎月いくつも創作、とはいかないが、他の人が考えたものを自分の手で再生する楽しみがあり、教える喜びもある。だがそういうときも創意工夫する姿勢は大切にしたいと思っている。

私の夢はいつの日か、自作の短歌と折り紙を併せた色紙作品の個展を開くこと。

ところで、わが家のオリキチ第三号だが、今のところ見当たらない。でも娘たちが興味を持っていることだけは確かである。



～ 3時台じ～



折紙探偵団定期例会のお知らせ

この次の例会も、相変わらず文京区民センターで、8月26日(土)午後1:30～9:00、9月30日(土)午後1:30～9:00です。次回のコンベンションの企画も進めたいと思いますので関心のある方、参加して見ようかなという方、ぜひ出席してください。

ギャラリー

おりがみはうす
でじゃないけど 個展案内

でもないけど作品展です「おりがみワンダーランド」越前和紙の里、福井県今立町のパピルス館において開催されます。これは10月に鯖江市で行われる世

界体操選手権の支援イベントとして選ばれたもので、海の生物、昆虫、空想動物など探偵団メンバーの作品が200点以上展示されます。

期間は10月1日から11月19日までAM9:00～PM4:00(休館日なし)お問い合わせは今立町商工観光課TEL0778-43-1111まで

「サイエンスワールド 夢の恐竜展」

埼玉県浦和市青少年科学館にて開催中です(9月10日まで)。ティラノサウルス全身骨格など、川畑、吉野、高井氏の恐竜折紙が約50点展示されています。

開館時間は、AM9:00～PM5:00(月曜休館)浦和駅東口からグランド経由北浦和駅東口行バス、宇宙科学館入り口下車 徒歩3分TEL 048-881-1515

発行・折紙探偵団

〒112 東京都文京区白山5-36-7
ギャラリーおりがみはうす内
Phone (03) 5684-6040
発行人・西川誠司
編集人・岡村昌夫

おしらせ 「をる」9号でも、すてきなイラストで活躍している、折紙探偵団のスズキナナミこと鈴木雅子さんの最新コミックス「短眠者」が、COMICアレ!9月号(マガジンハウス)に掲載されています。

折紙探偵団定期例会のお知らせ
未来から勝ちに来た新武器「折り紙」の威力は、敵が味方から、